

勝山市石碑調査報告書

勝山市の石碑



二〇一四

勝山市教育委員会

刊行にあたって

石碑は、石に文字を刻んで建てたもので、未来に生きる人たちに、過去に起きた何らかの「できごと」、あるいは現在起きている「できごと」を伝えていく役割が期待されており、現在も数多くの石碑が建てられています。市内には、さまざまな石碑が建てられており、今回の調査では、これまで調べられていた数の約四倍である五四七基を確認することができました。これらの中には、多くの人に知られ、管理が行き届いているものもあれば、石碑の存在すら忘れられ、草におおわれてひっそりたたずんでいるものまでさまざまです。

石碑は、地域のできごとや地域と関係のある人物に由来するものです。従って、石碑を調べれば、地域それぞれの身近な歴史を知ることができます。石碑の多くは、公園や寺社の境内、道路の交差点など、人の目にふれる場所に建てられています、本書をきっかけとして、身の回りをふり返っていただき、たくさんの方々の石碑と出会うことで、地域の歴史にふれ、先人の営みに思いをはせてもらえればと思います。また、「永遠」を期して石でつくられたとはいえ、自然の力による風化はどうしても避けることができず、刻まれた文字が読めなくなりつつある石碑もあります。今後は、このような石碑も大切に守っていかなければなりません。

最後になりましたが、調査に多大なるご協力をいただきました市民の皆さま、ご助言をいただきました勝山市史編さん審議会の委員の方々をはじめ、多くの関係機関、また関係者の皆様方に対しまして、心から厚く御礼を申し上げます。

平成二十六年三月

勝山市教育委員会 教育長 梅田幸重

目次

はじめに	1
1章 全体解説	2
1節 調査の経緯と分類	2
2節 人物碑	3
3節 忠魂碑・慰霊碑	5
4節 一般の碑	7
2章 地区別に見た碑	20
1節 平泉寺地区	20
2節 猪野瀬地区	55
3節 勝山地区	68
4節 村岡地区	108
5節 野向地区	122
6節 北谷地区	135
7節 荒土地区	142
8節 北郷地区	157
9節 鹿谷地区	173
10節 遅羽地区	187
石碑の位置図	192
3章 文化財・エコ町関係碑及び学校関係碑	198
1節 文化財・エコ町関係碑	198
2節 学校関係碑	198

凡例

- 一 碑は勝山市内に建てられているものを対象としたが、市外のものでも市に関係すると思われるものは全体の解説のなかで補足した。
- 一 人物碑のなかにはあくまでも伝承として、例えば明智光秀碑などとして伝えられているものがある。これらも同じく解説で補足した。
- 一 碑文は縦書きや横書き、両者の入り混じったものなど多様である。しかし一部を除き原則として縦書きで記した。碑文の長さにも長短があるが、これについても原文通り表記した。
- 一 碑の持つ特性・特質を生かすため、碑文中の文字はそのまま表記した。例 舊(旧) 但し、篆書体の文字や解説等で引用する場合は新字体を用いた。
- 一 文字の大小あるいは書体等もまちまちであるが、これも同じく統一した文字を用いた。
- 一 2つ以上に分けて建てられている碑については、碑文碑などとしてその区分がわかるように工夫した。直接の関連はないが参考になるとと思われる碑は参考の形で示した。
- 一 明らかに間違った内容が記されていると思われるものについては、注の形で示してある。
- 一 碑は数段からなるものが大半を占めているため、寸法の欄に2段、3段の形で示した。高さを最初に示し、次に横幅を最後に厚さの順で表記してある。高さは総高で幅と厚さについては最上段の碑の寸法で示した。碑はいびつな形のものもかなりあり数字はあくまで目安である。また忠魂碑などの中には計測できないものもあり、これらは計測不能とした。
- 一 碑のなかには摩耗が激しいものがあり、判読困難なものは■で、摩耗しているが前後の文脈等から判断して間違いのないと思われる文字は□で示した。
- 一 和年号についてはすべて西暦で注記した。例 文久二年…一八六二年。
- 一 碑文は全てをそのままの形で省略せず掲載したが、裏面に羅列されている人名については詰めて記した。

例言

- 一 本書は「勝山市石碑調査」の報告書である。
- 二 調査にあたり、勝山市史編さん審議会の助言を受けた。

勝山市史編さん審議会	会 長	荒 井 由 泰氏
	委 員	笠 松 雅 弘氏
	委 員	平 泉 和 美氏
	委 員	比良野八郎右エ門氏
	委 員	本 川 幹 男氏
	委 員	吉 田 健 氏
- 三 調査および本書の編集は下記の体制で実施した。

勝山市教育委員会	教育長	梅 田 幸 重
勝山市教育委員会	教育部 部長	多 田 栄 二
同	史蹟整備課 課 長	中 山 弘 之
同	文化財保護グループ	
	主 幹 (リーダー)	宝 珍 伸 一郎
	主 任	小 沢 紀 美子
	主 査 (学芸員)	松 村 英 之
	主 査 (学芸員)	阿 部 来
	学芸員	藤 本 康 司
	業務員	松 村 晶 生
	嘱 託	大 沢 真 理子
	市史編さん室嘱託	山 田 雄 造
	臨時職員	三 屋 恵 子
- 四 本書の執筆は、山田雄造が行った。また、本書の編集は勝山市教育委員会史蹟整備課が行い、関係諸氏の協力を得て、山田雄造・松村英之が担当した。

勝山市石碑調査報告書

はじめに

章立ては3章構成となっている。1章では石碑にかかわる全体的な説明を、2章以下で碑の分類に従って碑文と写真を中心に紹介する形式になっている。表1は石碑の全体像を把握するために作成したもので、市内に残る石碑を地区別・分類別に分けてある。地区割と分類の仕方に関しては1章節でくわしく述べてある。以下は各章の構成とその内容についての説明である。

表1 地区別・分類別石碑一覧

区分	分類 地区	人物碑	一般碑	忠魂碑	文化財	エコ町	学校	全体数
A	平泉寺	10	55	2	1	56	0	124
B	猪野瀬	3	21	1	0	3	0	28
C	勝山	28	53	5	2	14	53	155
D	村岡	4	18	2	0	3	3	30
E	野向	3	17	4	2	8	5	39
F	北谷	1	8	3	0	1	3	16
G	荒土	8	19	1	0	4	19	51
H	北郷	5	29	2	2	7	2	47
I	鹿谷	3	20	5	1	5	2	36
J	遅羽	0	11	1	3	6	0	21
	全体数	65	251	26	11	107	87	547

1章は4節からなり1節が全体的な説明、2節以下では人物碑・忠魂碑・一般碑の順でそれぞれに解説を加えている。説明を補うため全体で15点の表を作成した。そのうち1章の2節以下に市内全体の人物・忠魂・一般碑の一覧表を附けた(表2～4参照)。

2章は地区別に人物碑、忠魂碑、一般碑をまとめた章である。この章で扱う碑は多数にのぼるため、平泉寺町以下を10の区域に分け、初めに区ごとに簡単な解説をほどこし、続けて碑文と写真を載せる形式をとった。現地を訪れる際の便宜を図るために地区ごとの石碑一覧(表5～14参照)と位置図(図1～6)も作成した。

3章はエコ(町づくり)や文化財関

係の碑を一括して扱った章である。ただその数が205基にもなり報告書が膨大なページ数になるため、今回は残念ながら解説と学校関係碑一覧にとどめざるを得なかった。とはいえ後世に残すべく貴重な資料であることはその他の石碑と変わらない。幸い『人物編』の発行がこの後に予定されているので、あわせてその中で紹介できたらと思う。

碑の数はすべてを合計すると547と膨大であるため碑に番号を付けた。例えば平泉寺の山端祥玉君頌徳碑の場合ならばA-9といった形式である。その際、分類を基本にしながらも地区内においてはできる限り、場所的なまとまりを重視し番号を付した。立地場所は原則として現在建てられている地点で示してある。但し旧立地場所が判明するものについては備考欄に銘記してある。

なお、人物碑の碑文については読み下しが必要なものが随分とある。しかしページ数の関係で、これについても今回は割愛せざるを得なかった。『人物編』に欠かせない資料でもあり、先にも述べたようにあわせて掲載することが望ましい。

1章 全体解説

1節 調査の経緯と分類

調査の経緯 石碑調査は平成二十二年（二〇〇九）度から始めたが、この年はいくまでも予備的な調査として市内各地を回った。翌年から本格的な調査に入り、見落としを避けるため小回りのきく自転車で行った。先行する調査資料として「勝山市内にある顕徳碑・記念碑らの一覧表」（天野俊也著）があり、この資料を参考に調査に取りかかった。

調査を始めるにあたっては固定した観念にとらわれず、私たちの祖先が何等かの目的をもって銘文を刻んだ石造物全体を対象とした。実際調査に取りかかってみると、多種多様な石碑が見られることがわかった。詳細についてはこの後の章・節で述べる。また当初予想していた以上にその数が残っていることも明らかとなった。

人物碑の65基は別にして、数のうえでは忠魂碑も含め慰霊碑や供養碑あるいは災害碑などがかなりの数にのぼる。昭和五十年代（一九七五～八四）以降に土地整理事業や橋梁・道路造成工事が各地で行われ、これらに関連する碑も同じく相当数を占める。戦争や災害あるいは不慮の事故、あるいは各種工事の完成、こうしたことが契機となって石碑建設の動きが高まったのであろう。

石碑資料がどんどん集積されてくる中で、収集したデータをどのように分類するかという問題が生じた。いろいろな分類の仕方があると思われるが、とりあえずは大きく三つに分けることにした。わかりやすい人物碑と忠魂碑は独立させ、上記の分類に含まれないものはすべて一般碑とした。

学校関係とエコ関係碑の追加 2年間の調査で三百余の石碑が市内に存在することが明らかとなったが、その後の補充調査に加えて、学校に残る卒業記念碑も調査対象に含めたことで更に数が増えた。勝山市では将来的

には小中学校の統廃合が計画されており、こうした点も考慮に入れ、この際学校敷地内の碑も調査し、後世に記録として残して置いた方がよいと考えた。調査の結果、市内各小中学校に卒業記念碑を中心として87基もの碑が建てられていることが判明した。

一方、市が打ち出した「エコミュージアム構想」のもとで、各地区では平成十七年度から地元に残る史跡を掘り起し、その説明や案内のための石碑を建てるようになった。その数は40基近くにもなり現在は建設された年度ごとに番号がふられている。

ところで平泉寺町は古くから残る歴史的地名や遺跡を多くかかえていることもあり、早くから独自に石碑を建て町づくりに生かしてきた。その数は60に近く「平泉寺町まちづくり推進協議会」の名で建てられている。同じことが勝山地区についてもいえ、「わがまちげんき発掘事業勝山エコ推進協議会」の名で碑を建てており、この事業は現在も継続中である。これとは別にそれ以前からライオンズクラブにより建てられていた碑もあり、両者を合わせると14基になる。

これらエコ関係碑は市内全体では合計107基となり、これに文化財関係碑11基を加えると118基が建てられていることになる。

石碑の分類と地区区分 学校関係碑とエコ関係碑合わせて二百基余が新たに加わり最終的には碑の数が547基にもなった。そのため分類法を改めて、先に調査した人物碑など3種類の碑については一括りにして1章を設け、学校内に残された碑及びエコ関係碑と文化財関係碑も一括りにして別に1章を設けることにした。

こうして分類した石碑の中でもっとも多いのが一般碑である。その数は251基になりさらにいくつかの項目に分けて分類する必要があった。この点については4節に述べてある。一方、石碑は市内各地に分布している

ため地区をどのように分けるかも考慮する必要があった。

学校関係碑・エコ関係碑を除くと碑の65パーセントが昭和二十九年（一九五四）の勝山市成立以前のものであることもわかった。こうした点を踏まえて、地区割については市が成立する以前の1町9村に分けることにした（猪野瀬村は昭和六年に勝山町に合併したが、ここでは別に扱う）。各地区の住民にとってはその方がわかり易いと考えたからである。はじめに述べたように平泉寺以下を10の地区に分け、AからJまでのアルファベット区分で示すことにした。そして最終的には一般碑をいくつかに種類分けした上で、それと地区区分を組み合わせる形式で報告書を作成することに落ち着いた。

市内に残る石碑が多いか少ないかは、県内での先行事例がないため現在のところ比較のしようがない。調査を比較的容易に終えることができたのは、勝山市が面積の面でこじんまりした市であった点にある。それにしても石碑は今後も建てられるであろうし、また悉皆調査をしたつもりではあるが未発見のものもあると思われる。従って今後とも継続した調査が必要と思われる。

2節 人物碑

市内には65基の人物碑が残されている（表2参照）。ここでは全体的な特徴について簡単に述べる。はじめに以下の点についてお断りしておく。勝山にかかわりのある人物であっても、市外あるいは県外に設置されているものは対象外とし、原則として市内に残る人物碑のみを扱った。石像についてはその他の碑として分類したが、人物の履歴が記されたものはここで扱った。

碑の特徴 町村別でみると当然ながら勝山町が最も多く28基で、次いで平泉寺町の10基が続き、遅羽町に事例は見られなかった。人物碑はその多くが功績碑で、碑の表面にその人物の名称を入れて表記し、裏面には生没

年も含めた個々の人物の履歴と、碑を建設するに至った経緯を記す形式のものが多い。石碑として扱うかどうかの判断がむずかしい墓碑的なもの、例えば泰澄墓塔や泰澄母の廟所なども人物碑に入れた。同じような意味で平泉寺共同墓地の頭海ら3人の墓、開善寺の小笠原廟所の7基の藩主墓、法勝寺の「蓮如上人碑」「開基西順碑」も同様に碑として扱った。ただこれらの碑の多くは裏面に説明文にあたるものは記されていない。

碑は男性のものがほとんどであるが、その中で長山に建つ「石塚き以伊藤里遍女碑」など3基と、泰澄母の墓は女性の碑である。特殊な事例として頌徳碑のかたわらに人物像を建てるもの、あるいは人物像の台座の裏面にその功績を記すものも見られる。「多田清翁頌徳碑」「山内一郎先生像」などがこれに該当する。同一人物の碑が異なった場所に建てられている例もある。「竹内茂一氏頌徳碑」は同じ荒土町伊波の国道脇と、荒土小学校校庭脇に建ち、多田清翁の碑も教育会館前と、荒土町新保の公民館兼道場前に建つ。畑時能の碑や柴田義宣墓も同様で、人物碑そのものは65基存在するが、「石塚き以伊藤里遍女碑」を1人として扱うと人物そのものでいえば61人となる。

残した功績と建設年 忠魂碑については別に扱ってあるが個人の戦死を弔う碑も4基見られる。長山公園の嶋田弥市の碑、猪野瀬村旧毛屋地籍の笠松利作、野向町栃神谷の青木善作と天池五三郎の碑である。それぞれ日清戦争、日露戦争で戦死した人物で道路脇に建てられている。これら戦没者の碑は地区の墓地を中心にまだ数多く建てられていると思われる。

61人の人物が一体どのような功績を残し、どのような分野で活躍したのかを明確に分類するのはむずかしい。あえて分けると宗教や政治あるいは産業の分野で活躍した人物が三分二を占める。残りの三分一は教育・消防・医学などの分野で活躍した人物である。

人物の活躍した年代と建てられた年代は必ずしも一致しないが、ほぼ4割が近代以前に6割が明治から昭和にかけて活躍した人物である。建設された年代でいえば小笠原藩主の墓や近世の僧侶の墓が多いため、中世から

表2 人物碑一覧

地区	記号	番	名 称	人 物 名	設置年月日	寸 法	備 考
平泉寺	A	1	(泰澄墓塔)	泰澄	無	2段 総高3.57×1.35×0.90	
平泉寺	A	2	(楠正成墓)	楠正成	寛文8.6	2段 総高1.95×0.40×0.40	
平泉寺	A	3	富好行其徳	柳町如芥(助太郎)	明治34.7	2段 総高2.41×1.05×0.61	
平泉寺	A	4	江端翁頌徳碑	江端栄次郎	昭和13.9	4段 総高1.46	
平泉寺	A	5	武内翁功勞碑	竹内鉄也	昭和13.9.10	2段 総高3.07×1.11×0.145	
平泉寺	A	6	顕海墓	顕海	天正17.12.27	2段 総高2.37×0.50×0.10	
平泉寺	A	7	専海墓	専海	元和6.3.13	2段 総高1.89×0.70×0.20	
平泉寺	A	8	日海墓	日海	寛永13.6.14	2段 総高1.82×0.35×0.52	
平泉寺	A	9	山端祥玉君頌徳碑	山端祥玉	昭和23.8	2段 総高2.99×1.03×0.43	碑文別
平泉寺	A	10	東海和尚	東海和尚	元禄年中	3段 総高2.1×0.90×0.35	
猪野瀬	B	1	長谷川光君碑	長谷川光	大正4.7.1	3段 総高3.88×1.05×0.72	
猪野瀬	B	2	(泰澄大師御生母廟所)	泰澄生母	無	総高2.15×0.55×0.55	
猪野瀬	B	3	故陸軍歩兵伍長笠松利作之碑	笠松利作	明治39.6	4段 総高2.58×0.78×0.40	
勝 山	C	1	鶴野君紀功碑	鶴野喜六	明治40.8	3段 総高3.47×1.24×0.25	
勝 山	C	2	歌笛藤間氏塚	藤間	明治22.4	3段 総高2.66×0.77×0.40	
勝 山	C	3	秦先生遺徳碑	秦勤有	大正10.9	4段 総高3.72×1.05×0.35	
勝 山	C	4	木下義雄之碑	木下義雄	明治34.7	2段 総高1.85×1.31×0.14	
勝 山	C	5	陸軍歩兵嶋田弥市碑	嶋田弥市	明治32.5	3段 総高2.73×0.82×0.30	
勝 山	C	6	菊姫大神	菊姫	昭和28.11	2段 総高2.13×0.73×0.55	
勝 山	C	7	鶴澤よし女之碑	鶴澤よし女	明治33.10	3段 総高4.17×0.96×0.24	
勝 山	C	8	石塚き以女 伊藤里遍女碑	石塚きい 伊藤りへ	明治41.7	4段 総高2.22×0.95×0.30	
勝 山	C	9	呉石先生書道碑	西脇静	昭和47.4	2段 総高1.36×2.45×0.25	
勝 山	C	10	中村清蔵氏之碑	中村清蔵	昭和8.4	4段 総高2.49×0.75×0.57	
勝 山	C	11	斎藤氏之碑	斎藤治兵衛	明治41.1	3段 総高3.38×1.23×0.50	
勝 山	C	12	鈴木先生碑	鈴木定七	明治38.3	3段 総高3.03×1.06×0.365	
勝 山	C	13	長谷川先生功績碑	長谷川伝蔵	大正10.10	3段 総高4.57×1.60×0.37	
勝 山	C	14	魯斎秦先生之墓	秦魯斎	元治1・9	3段 総高1.63×1.45×0.51	
勝 山	C	15	義宣寺殿傑山玄英大居士 勝成院殿蘭香宗英大居士	神儀 柴田義宣・勝成	無	3段 総高2.31×0.34×0.35	
勝 山	C	16	林季梁遺徳碑	林毛川	明治22.4	3段 総高3.05×1.80×0.20	墓は大蓮寺 プレート
勝 山	C	17	多田清翁像	多田清	平成4.10.吉日		
勝 山	C	18	遺蹟之碑	藤田九兵衛	大正6.2	2段 総高1.86×0.88×0.40	
勝 山	C	19	小笠原信胤墓	小笠原信胤	延享2.6.29	3段 総高1.46×0.23×0.215	
勝 山	C	20	小笠原貞信墓	小笠原貞信	正徳4.6.17	3段 総高1.77×0.31×0.305	
勝 山	C	21	小笠原長貴・妻墓	小笠原長貴・妻	天保11.2.29 慶応4.4.28	3段 総高1.70×0.30×0.30	
勝 山	C	22	小笠原信房墓	小笠原信房	寛政6.1.10	3段 総高1.76×0.32×0.31	
勝 山	C	23	小笠原信辰墓	小笠原信辰	享保21.2.18	3段 総高1.43×0.215×0.215	
勝 山	C	24	小笠原長教・妻墓	小笠原長教・妻	寛政11.3.10	3段 総高1.76×0.295×0.295	
勝 山	C	25	小笠原信成・妻墓	小笠原信成・妻	享保15.7.14 享保20.12.14	3段 総高1.45×0.215×0.21	
勝 山	C	26	蓮如上人碑	蓮如	大正15.10	(2段 総高2.03×1.50×0.50)	
勝 山	C	27	開基西順碑	西順	無	1段 総高1.65×0.65×0.47	
勝 山	C	28	松尾山神宮寺第一世良賀和尚墓碑	良賀	享保8・11.16	1段 総高1.00×0.33×0.22	
村 岡	D	1	故陸軍出兵伍長青木善作碑	青木義信	(明治)	4段 総高	
村 岡	D	2	故村岡消防組頭高野藤一碑	高野藤一	明治38.10	4段 総高2.64×0.55×0.20	
村 岡	D	3	山内一郎先生像	山内一郎	平成6.4.吉日	1段 1.83×1.27×1.07像別	プレート
村 岡	D	4	故天池五三郎之碑	山内五三郎	明治39	3段 3.20×1.35×0.13	
野 向	E	1	松井村長頌徳碑	松井伝兵衛	昭和28.10	4段 総高2.64×0.60×0.45	
野 向	E	2	高田喜内紀念之碑	高田喜内	無	2段 総高1.50×0.47×0.34	
野 向	E	3	佐々木長勝之墓	佐々木長勝	平成10.4.2	2段 総高1.60×0.21×0.125	
北 谷	F	1	(柴田監物墓)	柴田義宣	無	3段 総高1.07×0.17×0.165	
荒 土	G	1	多田清翁頌徳碑	多田清	昭和45.11	2段 総高2.62×0.905×0.16	
荒 土	G	2	(釈乗祐法師碑)	乗祐	大正12.3	3段 総高2.97×0.88×0.64	
荒 土	G	3	島田喜右衛門翁頌徳碑	島田喜右衛門	昭和44	3段 総高2.89×0.70×0.65	
荒 土	G	4	竹内茂一氏頌徳碑	竹内茂一	昭和12.5	計測不可	
荒 土	G	5	竹内茂一氏頌徳碑	竹内茂一	昭和12.3	3段 総高5.08×0.90×0.45	
荒 土	G	6	故原田仁一郎碑	原田仁一郎	大正7.7	6段 総高4.42×0.53×0.30	
荒 土	G	7	西尾五作氏頌徳碑	西尾五作	昭和39初夏	2段 総高2.38×0.76×0.18	
荒 土	G	8	筆塚	三浦栄信	大正10.11	3段 総高2.69×0.90×0.39	
北 郷	H	1	釈常音居士	松田義直	明治	1段 総高0.90×0.30×0.295	
北 郷	H	2	筆塚	高原邁	明治15.6	4段 総高2.61×0.72×0.41	
北 郷	H	3	木下吉郎右衛門墓	木下吉郎右衛門	(明治21)	1段 総高0.94×0.27×0.18	
北 郷	H	4	贈正四位畑公碑	畑時能	昭和16.8	4段 総高3.18×0.97×0.35	
北 郷	H	5	畑將軍戦死之地	畑時能	大正8.5	2段 総高1.84×0.335×0.1856	
鹿 谷	I	1	山内淡月頌徳碑	山内淡月	昭和33.12.30	4段 総高2.00×0.78×0.17	碑文別
鹿 谷	I	2	(超道碑)	嶋田超道	明治	3段 総高2.42×0.45×0.20	

近世の碑が全体の2割余を占める。近代以降では明治がほぼ3割余、大正が1・5割、昭和が2割余、平成と不明が1割である。

碑の設置場所 墓碑を除くと碑の多くは町や村のために尽力した人物を、その人物が生まれ育った地区の人たちが、郷土の誉として顕彰するために建設したものがほとんどである。そのような事情もあって、かつては地元の人通りの多い場所に建てられていた。しかし交通の妨げになるとして、あるいは土地区画整理のため、やむなく移転されたものかなりの数にのぼる。その移転先は墓地あるいは神社・公園・学校の敷地などが多い。とはいえ村部に残る碑には、いまだに道の傍らに建てられているものがある。

鹿谷町矢戸口の山中には石田三成墓と伝えられるものが、遅羽町中島の道路脇には曾我五郎墓と伝えられる墓碑が建っている。また勝山に関係の深い人物である畑時能の碑が上志比の慶妙寺に、松村九山の碑が大野市の妙典寺に、松平直良の供養碑が大野市木本に建つ。これらは確証がないためあるいは市外であるため省いた。

3節 忠魂碑・慰霊碑

この節では戦争で亡くなった人物や、不慮の死を遂げた人物の霊を祀る忠魂碑および慰霊碑を扱った。戦争で亡くなられた方でも個人墓的なものは人物碑で扱い、ここでは「忠魂（霊）」「慰霊」の銘があるもののみに限定した（表3参照）。なお一般碑の扱いにしたものも一部ある。

忠魂碑はそのほとんどが旧町村単位で建立されたが、勝山町の場合は忠魂碑としてではなく忠魂社が天守跡に建てられ、市民会館建設にともない昭和四十二年（一九六七）に長山公園に移転された。猪野瀬村の忠魂碑はかつて若猪野分教場に建てられていたが、現在は浄願寺境内に移されている。以下では地区ごとに見ていく。

平泉寺・猪野瀬の碑 平泉寺町には白山神社境内に大正四年（一九一五）と昭和三十四年のもの2基が並んで建つ。前者は日露戦争以前の後者は太

平洋戦争を中心とした犠牲者の霊を祀るものであろう。後者の碑の裏面には戦死者の名前が連記されている。

猪野瀬の碑は先に触れたように浄願寺境内に建てられている。大正十四年に帝国在郷軍人会の名で建立されたもので移転した理由は不明である。片瀬には区独自の忠魂碑が大正四年に建てられており、その横には太平洋戦争の英霊者を連記した昭和四十七年建立の碑が別に建つ。

勝山町の碑 勝山町には町としての忠魂碑は現在残っていない。長山公園に西脇呉石題書とある大正十四年の「忠魂社」碑と、「哀悼之碑遷座記念」碑が建つ。勝山町の招魂社は天守台の取り壊しのため、長山公園に猪野瀬村と合同で昭和四十二年に新たに建設され、同年五月十四日に竣工式と大祭が行われた。現在は五月最終土曜日に慰霊祭が行われている。

そこに至るまでには次のような経緯があった。招魂社は神明神社の摂社であった稲荷社の社殿を、大正十二年に旧城社の天守台跡に移築したものである。長山の招魂社の社殿前に「招魂社」の石柱が建っており、「小林平三郎 大正十四年八月 呉石謹書」と刻まれている。この碑も同十二年の社殿の移築にともない新たに建てられたものと思われる。そして昭和四十二年の招魂社の移転に伴い、一緒に天守台から長山公園に運ばれたと考えられる。

一方、招魂碑は既に明治四十三年（一九一〇）以前に長山公園に建てられていた。長山公園の招魂社から少し離れた場所に、大正十三年建設の「哀悼之碑遷座記念」碑がある。この碑は招魂碑を天守台に移すにあたりその記念に建てられたものと思われる。しかしかつて長山公園に建てられていたであろう招魂碑は現在のところ不明である。これとは別に義宣寺境内には支那事変（日中戦争）の戦死者の霊を祀る忠霊塔と慰霊碑が建つ。

村岡・野向町の碑 村岡町の忠魂碑は村岡山山頂に建てられており、年号が記されていないが大正時代のものと思われる。別に在郷軍人会の会員名列碑も建てられている。また村岡山の入口には「村岡廟」が建ち、この碑には建設に当たった協力者と土地寄附者の名前が、また平泉澄の名で

文章も記されている。ただし英霊者の名前は刻まれていない。

野向町全体の忠魂碑は大正十三年建立とあり小学校校庭の片隅に建つ。これは一旦埋められていたものを昭和二十七年に復旧したもので、その傍らには同三十四年建立の「戦死者名列碑」も建つ。深谷には区独自の「殉国之碑」が遺族により建てられている。横倉区には昭和三十八年のアワ(雪崩)で亡くなった地区住民・生徒の犠牲者の霊を祀る「慰霊碑」が2基建っている。

北谷・荒土・北郷町の碑 北谷町には3基の碑が見られる。地区全体の忠魂碑は河合にあり、北谷遺族会が昭和二十九年に建てたもので、同四十年には終戦二十周年記念としてその横に「戦死者名列碑」も建てられた。最初は北六呂師(現在の公民館の前庭)に建てられていたが、その後北谷小学校に更に昭和二十二年に現在地に移された。

現在は廃村となつてしまった中野侯には、区独自の碑が平成二年(一九九〇)に「平和の礎」の名称で建てられた。そこには戦没者名と「仏説無量寿経」から採られた一文も記されている。木根橋の滝波川発電所敷地には、建設工事中の殉職者の霊を祀る慰霊碑が建てられている。

荒土町の忠魂碑は荒土郷友会の名で昭和二十一年に建てられた。その横に平成六年に「五十回忌 追悼法要記念」として、戦没者の名前を刻んだ碑が別に建てられた。北郷町は東野に地区全体の「忠霊塔」を昭和三十五年に建てた。また蓮照寺境内には日露戦争の戦死者のための「忠魂碑」が建つ。市内ではこの碑が最も古いもので明治三十八年に建てられた。

鹿谷・遅羽町の碑 鹿谷町には地区全体のもの1基、区単位のもの3基、個人の手になるもの1基の計5つの碑が建てられている。本郷に地区全体のものとして大正十五年建設の忠魂碑が建つ。その前面に昭和三十年建設の「碑文」と記された碑が建ち、そこには西南戦争から太平洋戦争に至る戦没者の名前が刻まれている。同じ敷地に個人が奉納した「萬霊供養塔」も建っている。

同町の東遅羽口には区独自の忠魂碑が昭和四十年に建てられた。済南の

表3 忠魂碑一覧

地区	記号	番	名 称	設置年月日	寸 法	備 考
平泉寺	A	11	気功碑	大正4.4		計測不能
平泉寺	A	12	忠魂碑	昭和34.7	1段 総高2.50×1.01×0.19	
猪野瀬	B	4	忠魂碑	大正4.9	4段 総高3.69×0.92×0.32	英霊者名列
勝 山	C	29	哀悼之碑遷座記念	大正13.10.5	1段 総高0.45×0.68×0.315	
勝 山	C	30	招魂社	大正14.8	2段 総高2.81×0.36×0.26	
勝 山	C	31	忠霊塔	昭和52		支那事変
勝 山	C	32	慰霊	平成19	1段 総高0.58×0.30×0.12	支那事変
勝 山	C	33	忠魂碑	大正4.11	1段 総高2.10×1.80×1.00	
村 岡	D	5	村岡廟	昭和28.7	3段 総高2.41×0.35×0.22	
村 岡	D	6	忠魂碑	大正	4段 総高4.05×1.20×0.66	
野 向	E	4	殉国之碑	昭和35.7.吉日	3段 総高3.00×0.76×0.16	
野 向	E	5	忠魂碑	大正13.10	5段 総高5.91×0.86×0.58	名列碑
野 向	E	6	慰霊碑	昭和38.12.20	並列 0.60×1.05×0.15	
野 向	E	7	慰霊碑	昭和52.8.吉日	並列 1.21×0.76×0.12	
北 谷	F	2	忠魂碑	昭和29.7	3段 総高5.12×1.30×0.42	元小学校に有、碑文、別碑3つあり
北 谷	F	3	慰霊碑	昭和38.10	2段 総高1.42×2.48×0.27	
北 谷	F	4	平和の礎	平成2.9	2段 総高1.23×1.78×0.24	
荒 土	G	9	忠魂碑	昭和21.9		名列碑
北 郷	H	6	忠魂碑	昭和35.11		
北 郷	H	7	忠霊塔	明治38.11	2段 総高1.55×0.87×0.43	
鹿 谷	I	4	殉國之碑	無	2段 総高0.84×1.00×0.27	
鹿 谷	I	5	忠魂碑	大正15.9		名列碑
鹿 谷	I	6	南無観世音菩薩萬霊十方法界萬霊供養塔	昭和44.9		
鹿 谷	I	7	忠魂碑	昭和40.4	4段 総高2.90×0.55×0.62	名列碑別
鹿 谷	I	8	嗚呼殉道之碑	昭和26.8	3段 総高4.29×1.53×0.50	
遅 羽	J	1	忠魂碑	無		名列碑、計測不能

役から太平洋戦争に至る戦没者の霊を祀るものである。同じく発坂にも独自の碑が「殉国之碑」の名称で建ち、これは太平洋戦争の戦死者の霊を祀る。矢戸口の水谷神社境内には平泉澄書と刻まれた「嗚呼殉道之碑」が建てられている。

遅羽町には遅羽奉讃会により地区全体の忠魂碑が、別に遅羽遺族会の名前で日露戦争以降太平洋戦争に至る戦没者芳名碑も建てられている。しかしいずれも建設年は記されていない。

大戦後にGHQの指令もありかなりの数の忠魂碑が破却された。しかし野向の忠魂碑のように復旧されたものもある。その形式には北谷地区の忠魂碑のように周囲を砲弾型の柱で囲むようなものも見られる。なお碑の寸法について一部のものは計測ができないため空欄になっている。

4節 一般の碑

この節では一般碑として、人物碑にも忠魂碑にも分類できないその他すべての碑を扱った。その数は251基にも及びその種類内容が多岐にわたるため、それらをいくつかの項目に分ける必要があると考えた。しかしあまり細かく分けるとかえって混乱するため、多少強引なところもあったが27の項目に分けた。(表4参照)

土地改良関係の碑 ここには開墾・土地改良・農村基盤整備事業などにもなう碑を土地改良関係碑としてまとめた。碑は市内に17基見られ項目分けをした中では高僧や宗教民俗関係の碑と並んで多い。地区別に見ると、平泉寺町には基盤整備事業碑を中心に5基見られ、そのうち赤尾の石碑は総合整備とあり、公園整備的な面が強いが、広い意味で土地改良の事例として入れた。

その他に猪野瀬に2基、村岡に2基、野向に1基、荒土に3基、北郷に1基、遅羽に3基見られる。勝山町・北谷・鹿谷には事例が見当たらない。旧勝山町と北谷については農耕地の状況を考えると納得がいくが、鹿谷地

区で碑が建設されなかった事情についてはよくわからない。

事業規模で見るとかぎりでは、遅羽町に見られる3基は他地域と大きく異なり、1〜2村単位で行われた小規模な事業であったことがわかる。これに対し他地域のものは県や市の助成を得て行われ、しかも億単位の事業費をつぎこんだ大規模な土地整備事業であった。遅羽町に似た事例として、荒土町北宮地の土地改良事業も1村単位で、しかも年代的にも昭和四十一年(一九六六)と早い時期に行われている。

年代的にもっとも古いものは、遅羽町大袋(新道)にある大正九年(一九二〇)建立の「大興紀念碑」である。碑の表側の下方に開墾と記されており、大正四年から六年の歳月をかけ、農商務省の助成を得て行われた事業にかかわる碑であることがわかる。土地の分類には入れなかったが「芳野原ふるさとの碑」にも同じく開拓の経緯が記されている。碑文からはリゾート開発でこの地を去らなければならなかった開拓者のせつない思いが伝わってくる。

残る13基の碑は、昭和五十年代の初めから平成にかけて行われた大規模な土地区画整理事業にかかわる碑である。その多くは農業生産性の向上を目的に、圃場整備・灌漑配水事業・農道整備など、農村基盤整備事業の完成を記念して建設された。そこには関係する村々の名前や関係者名、事業にとりもなう費用や受益面積、事業開始時の組合設立の困難さと完成に至る経緯も含めて長文で記されている。

灌漑用水・水道関係の碑 灌漑用水や水道に関わる碑は平泉寺町に2基、野向・荒土・鹿谷町にそれぞれ1基の計5基見られる。このうち最も古いものは鹿谷町本郷の「用水記念碑」で、年代の部分が摩耗しているが恐らく明治三十八年(一九〇五)に建てられたものであろう。用水不足に悩まされた歴史を簡潔に記し関係者一覧も記されている。これに次ぐのが平泉寺町平泉寺の「疎水記念碑」である。用水を確保することの苦難の歴史が記され、疎水建設に尽力した武内鉄也の功績を顕彰している。裏面には関係者名が列記されている。

農業生産を基礎とする社会にあっては用水の確保が死活問題であった。近世以来大野郡北部の村々でも数多くの組合用水が設立された。そのなかでも最も規模の大きいものとしては勝山町と6か村（若猪野・上高島・北市・下高島・下毛屋・畔川）の大用水（立会用水）があった。この用水に関する絵図・文書資料は残っているが石碑としては残念ながら残っていない。野向町深谷の「中山用水」にかかわる碑は、この用水の全線改修工事完了を記念して建てられた。

水道にかかわるものとして平泉寺町平泉寺に「簡易水道記念碑」が建つ。旧勝山町にあたる市中心部の上水道施設が完成するのは昭和三十八年である。これに対し旧村部では同三十三年頃から簡易水道の建設が始まり、平泉寺町では三十七年に計画され三十九年に完成する。比較的最近のものとしては、平成六年（一九九四）に建てられた荒土・北郷両地区の飲雑用水施設の完成記念碑がある。

道路改修関係の碑 道路や河川の改修・開設にかかわる記念碑をここにまとめた。道路にかかわる碑は7基のうち3基は広域農道および林道の完成を記念して建てられた。いずれも平成に入ってから完成を見たもので、前者は平泉寺町大矢谷の六呂師高原に向かう道路沿いに建つ。工事は奥越地域の基幹的農道整備の一環として、75億近い巨費を投じて二十年に竣工した。

後者にかかわる碑は2基あり、一つは荒土町新道から大日岳に向かう林道沿いに建つ。幹線林道の第1期工事として昭和五十二年に始まり平成三年に新道線が完成、第2期は横倉線として施行の予定である。もう一つは北郷町岩屋から丸岡町（旧）竹田、石川県山中町に向かうもので、平成十一年に完成した。場所は石川県側になるがこの先に「河内・南谷線」の記念碑も建っている。

道路改修・竣工記念碑は4基見られるが、「村岡校道」の碑についてはその経緯は不明である。昭和九年に碑が建てられており、翌年に校舎が新築されたことと関係があるのかも知れない。平泉寺小学校入口の「巡見道

改修記念碑」は、失業対策事業として行われたことを記す。女神川には巡見橋が架かっており、付近一帯には近世において幕府巡見使や、藩主小笠原氏が村内巡視のため利用した古道が今も残る。

「牛首衛改修記念碑」は村岡町寺尾の国道157号線沿いに建っている。当時の白峰村と勝山町とをつなぐ通称「牛首道」の改修を記念して、明治三十一年に建てられたものである。鹿谷町杉俣の「道路改修記念碑」は、当村出身の山内栄吉が大阪でラシャ屋経営に成功し、村道改修に多額の寄附をしたことを記念して建てられた。

架橋碑 架橋そのものにかかわる碑は「架橋記念碑」の1基のみである。九頭竜川には泰澄が渡ったとされる「箱の渡」のほか、近世には「鵜の島」「小舟の渡」など多くの渡しがあった。なかでも福井方面と勝山を結ぶ「小舟の渡」は交通の要ともいえ、明治十五年には舟橋が計画されたが、洪水で切断され交通杜絶が絶えなかった。大正十二年、北郷村の石川石松の努力が実りようやく鉄橋が架けられた。この碑は「えちぜん鉄道」小舟渡駅のそばに建てられている。

架橋ともかわりその橋の名前の由来を説明した碑が平泉寺町に3基見られる。「荒神橋」「弁財天橋」にかかわるもので、平泉寺の「四寺内」の一つ荒神や、六千坊址の一つ弁財天堂に由来する旨が記されている。

建物跡の碑 学校など公の施設や寺社の建物のあった場所に記念として建てられた碑である。碑は全部で16基見られ学校や役所跡に建てられたものが大半を占めている。平泉寺町赤尾の「正光山空心房跡」の碑は坊院跡地の碑である。岩ヶ野の「竺峰庵之跡」の碑も同じ部類に属し、同地の「弁財天堂址」は傍らの祠に書かれた説明文によると、昭和十一年の道路改修記念と併せて建てられたとある。

若猪野には役場跡の碑がありエコ関係の碑であるが、碑文が長文であるためここで扱った。片瀬の白山神社境内には「師山尋常小学校跡」の碑が建つ。勝山町のものとしては、市民会館の庭に元は天守台にあった「勝山城址之碑」と、商工会議所前に「成器堂跡」の碑が建つ。

表4 一般碑一覧

地 区	記号	番	名 称	分 類	設置年月日	寸 法	備 考
平泉寺	A	13	記念碑	土地改良	昭和63.3.吉日	2段 総高2.54×1.12×0.18	
平泉寺	A	14	記念碑	土地改良	昭和52.7	2段 総高2.73×0.97×0.23	碑文別
平泉寺	A	15	記念碑	土地改良	平成4.8.吉日	3段 総高2.94×1.01×0.16	
平泉寺	A	16	総合整備記念碑	(公園)改良	平成3.3	1段 総高1.66×0.31×0.28	
平泉寺	A	17	記念碑	土地改良	昭和54.7	2段 総高2.69×1.00×0.15	碑文別
平泉寺	A	18	竣工記念碑	土地改良	平成6.10.吉日	2段 総高2.40×1.70×1.70	碑文別
猪野瀬	B	5	記念碑	土地改良	平成14.10	4段 総高6.13×0.93×0.16	
猪野瀬	B	6	記念碑	土地改良	平成3.6	3段 総高3.15×1.00×0.19	碑文別
村 岡	D	7	竣工記念碑	土地改良	昭和53.10.10	3段 総高1.40×2.31×0.30	
村 岡	D	8	記念碑	土地改良	昭和63.11.吉日	2段 総高1.44×2.11×0.21	
野 向	E	9	竣工記念碑	土地改良	昭和62.9	2段 総高1.25×2.76×0.17	
荒 土	G	10	土地改良記念碑	土地改良	(昭和55)	2段 総高3.03×0.31×0.24	
荒 土	G	11	記念碑	土地改良	昭和59.3.吉日	3段 総高3.64×1.08×0.21	
荒 土	G	12	完成記念之碑	土地改良	昭和63.10.30	1段 総高2.43×3.64×1.22	一部埋込プレート、碑文別
北 郷	H	8	竣工記念碑	土地改良	昭和51.7.吉日	2段 総高5.05×1.50×0.26	
遅 羽	J	2	大興記念碑	土地改良	大正9.4.21	3段 総高2.31×1.05×0.46	
遅 羽	J	3	記念碑	土地改良	平成1.10.吉日	3段 総高1.15×1.60×0.40	
遅 羽	J	4	記念	土地改良	昭和51	3段 総高2.11×1.00×0.90	
平泉寺	A	19	疎水記念碑	用水・水道	昭和8.10	4段 総高3.35×1.63×0.22	
平泉寺	A	20	簡易水道記念碑	用水・水道	昭和44.10	3段 総高2.27×0.68×0.85	
野 向	E	8	竣工記念碑	用水・水道	昭和62.10.10	2段 総高2.90×0.97×0.14	
荒 土	G	13	竣工記念碑	用水・水道	平成6.12	2段 総高1.97×1.10×0.45	
鹿 谷	I	10	用水記念碑	用水・水道	明治38.11	3段 総高3.04×0.87×0.33	
平泉寺	A	21	県道 巡見道改修記念碑	道路改修	昭和29.3	2段 総高2.05×0.66×0.11	
平泉寺	A	22	竣工記念碑	道路改修	平成20.10.吉日	2段 総高2.35×1.00×0.20	碑文別
村 岡	D	9	牛首道?改修記念碑	道路改修	明治31.7	3段 総高3.67×0.80×0.54	
村 岡	D	10	(村岡校道竣工碑)	道路改修	昭和9.12	1段 総高0.74×0.23×0.17	
荒 土	G	14	竣工記念	道路改修	平成3.6.吉日	5段 総高1.43×1.21×0.42	
北 郷	H	36	完成記念碑	道路改修	平成11.11.吉日	2段 総高2.16×2.68×0.74	
鹿 谷	I	9	道路改修記念碑	道路改修	昭和6.2	3段 総高4.29×1.30×0.80	
平泉寺	A	23	荒神石橋	架橋	平成15.3.吉日	4段 総高1.84×2.13×0.16	
平泉寺	A	24	荒神橋名由来	架橋	平成11.3.吉日	2段 総高1.81×1.81×0.15	
平泉寺	A	25	「弁財天大橋」名の由来	架橋	平成14.3.吉日	3段 総高2.09×2.15×1.45	
北 郷	H	9	架橋記念碑	架橋	大正12.9	4段 総高4.48×0.76×0.45	
平泉寺	A	26	(正光山空心房跡の碑)	建物跡	無	1段 総高1.00×1.80×2.30	
平泉寺	A	27	竺峰庵之跡	建物跡	平成2.6.吉日	3段 総高1.22×1.00×0.15	
平泉寺	A	28	弁財天堂趾	建物跡	昭和11	2段 総高1.92×0.67×0.58	
猪野瀬	B	7	師山尋常小学校記念碑	建物跡	平成7.9	4段 総高0.91×1.06×0.13	
勝 山	C	34	勝山城址之碑	建物跡	明治22.3	2段 総高3.62×2.17×0.23	
勝 山	C	35	舊跡勝山藩成器堂跡	建物跡	平成5.10.吉日	1段 総高1.19×0.51×0.13	
野 向	E	10	横倉小学校跡	建物跡	平成24.8.12	1段 総高1.00×0.24×0.24	
北 谷	F	5	中尾発電所記念碑	建物跡	無	2段 総高1.64×1.14×0.17	埋込プレート
北 谷	F	6	木根橋火葬場跡	建物跡	平成11.6.吉日	3段 総高1.41×0.70×0.15	
北 郷	H	10	坂東島鑛山跡	建物跡	無	2段 総高1.94×0.24×0.24	
鹿 谷	I	11	鹿溪小学校跡	建物跡	昭和60.8.15	3段 総高2.80×0.62×0.37	
鹿 谷	I	12	甲淵小学校跡	建物跡	無	3段 総高2.27×0.68×0.33	
鹿 谷	I	13	大門跡	建物跡	無	1段 総高0.63×0.36×0.10	
遅 羽	J	5	北山惣社趾	建物跡	平成5.春	2段 総高1.92×0.34×0.31	
遅 羽	J	6	旧遅羽村役場跡	建物跡	平成10.8.15	1段 総高1.17×0.18×0.15	
遅 羽	J	7	遅羽保育所跡地	建物跡	平成16.3.16	1段 総高1.02×0.58×0.12	
猪野瀬	B	8	白山稚児神社御造営事業奉納者碑	神社造営	平成1.10.吉日	2段 総高1.54×2.00×0.25	
猪野瀬	B	9	白山稚児神社御造営記念碑	神社造営	平成1.10	2段 総高2.33×1.07×0.25	
村 岡	D	11	記念碑	神社造営	昭和61.9.吉日	2段 総高1.14×0.15×0.12	
野 向	E	11	(白山神社遷座碑)	神社造営	昭和41.1.吉日	2段 総高0.92×0.23×0.13	
野 向	E	12	白山神社再建御造営事業奉納者名碑	神社造営	平成2.8.吉日	2段 総高1.65×1.91×0.15	
荒 土	G	15	氏神社殿建立時奉納寄進者記念碑	神社造営	平成2.9.7	2段 総高1.13×1.33×0.12	
荒 土	G	16	社殿建築記念碑	神社造営	昭和12.9	3段 総高3.28×0.32×0.18	
荒 土	G	17	遷座記念碑	神社造営	明治39.9	2段 総高1.96×0.61×0.24	
北 郷	H	11	新志倶楽部	神社造営	昭和39.7.吉日	3段 総高1.67×0.30×0.18	
北 郷	H	12	(参道寄進碑)	神社造営	無	1段 総高1.43×0.26×0.12	
北 郷	H	13	(神社用地寄進者碑)	神社造営	無	2段 総高1.63×0.42×0.13	

地 区	記号	番	名 称	分 類	設置年月日	寸 法	備 考
北 郷	H	14	参道改修記念碑	神社造営	昭和59.8.吉日	2段 総高1.60×0.61×0.12	
平泉寺	A	29	(鎮守宮由緒)	神社由緒	平成16.7.吉日	1段 総高1.23×0.75×0.37	
平泉寺	A	30	(八幡神社由来)	神社由緒	平成9.10.吉日	1段 総高0.91×1.82×0.15	
猪野瀬	B	10	(八幡神社由緒碑)	神社由緒	昭和63.8.吉日	碑のみ 0.76×1.25×1.35	
村 岡	D	12	白山神社と黒原村	神社由緒	昭和60.8	2段 総高1.55×1.64×0.07	
勝 山	C	36	道標 (白山道 中橋道)	道標	明和5	1段 総高0.43×0.20×0.22	
勝 山	C	37	道標 (平泉寺道)	道標	大正3.6	1段 総高1.50×0.33×0.30	
勝 山	C	38	道標 (坂谷みち 平せし道)	道標	宝暦4.6	1段 総高0.86×0.38×0.33	
鹿 谷	I	15	道標 (芦見道)	道標	大正13.11	1段 総高0.65×0.12×0.12	
鹿 谷	I	16	道標 (芦見道)	道標	無	1段 総高0.75×0.12×0.12	
平泉寺	A	31	下乗	説明案内	無	2段 総高2.02×0.43×0.28	
平泉寺	A	32	平泉寺白山神社参道	説明案内	昭和62.9.17	1段 総高1.30×1.96×0.15	
平泉寺	A	33	旧参道	説明案内	昭和7	2段 総高0.88×0.21×0.21	
平泉寺	A	34	牛岩馬岩	説明案内	無	2段 総高1.03×0.21×0.21	
平泉寺	A	35	光明寺参道	説明案内	昭和55.7	2段 総高1.74×0.22×0.22	
勝 山	C	39	(福祉会館中庭説明碑)	説明案内	昭和51.9	1段 総高1.88×0.84×0.41	埋込プレート
勝 山	C	40	からくり時計	説明案内	無	1段 総高0.47×0.76×0.82	埋込プレート
勝 山	C	41	(大清水説明碑)	説明案内	無		
村 岡	D	13	(村岡城碑)	説明案内	無	1段 総高1.16×0.21×0.21	
村 岡	D	14	四国八十八ヶ所登り口	説明案内	平成10.11	2段 総高2.11×0.31×0.25	
荒 土	G	18	(賢勝寺由緒碑)	説明案内	平成10.5.21	2段 総高1.19×1.30×0.20	
荒 土	G	19	俱会精舎	説明案内	無	2段 総高1.30×0.66×0.17	
北 郷	H	15	(伊地知姓発祥の地碑)	説明案内	平成17	1段 総高1.48×0.24×0.20	
鹿 谷	I	17	保田時計台	説明案内	平成18.5.吉日	1段 総高1.30×0.18×0.12	
鹿 谷	I	18	蓮如上人御旧跡所	説明案内	昭和56.3.吉日		
平泉寺	A	36	望郷	故郷	昭和53.10	1段 総高1.22×2.45×0.22	
勝 山	C	42	(ふるさとの碑)	故郷	平成2.10	2段 総高2.53×3.80×1.05	
野 向	E	13	ふるさとの碑	故郷	平成24.7.吉日	1段 総高0.67×0.70×0.09	
北 谷	F	7	望郷	故郷	昭和55.6.吉日	2段 総高1.11×1.70×0.20	
勝 山	C	43	(市制四十周年記念碑)	行政・団体	平成6.9.1	2段 総高2.48×1.51×0.40	埋込プレート
勝 山	C	44	(タイムカプセル碑)	行政・団体	昭和59.9.1	1段 総高1.26×1.10×0.50	埋込プレート
勝 山	C	45	置県百年記念碑	行政・団体	昭和56.2.7	2段 総高1.08×1.36×0.33	埋込プレート
勝 山	C	46	(創立25周年記念碑)	行政・団体	無		
勝 山	C	47	(ゆとり 創造宣言都市碑)	行政・団体	平成6.8	2段 総高1.93×1.29×0.21 1段 総高0.40×0.60×0.05	横にゆとり創造 宣言都市の碑
勝 山	C	48	(創立十周年記念樹碑)	行政・団体	昭和46.6	1段 総高0.31×0.82×0.07	
勝 山	C	49	(歩こう会体操会場碑)	行政・団体	昭和56.5	1段 総高1.00×0.13×0.10	
平泉寺	A	67	還暦記念樹	植樹	昭和39.8.吉日	1段 総高0.83×0.21×0.18	
勝 山	C	50	(植樹記念碑)	植樹	平成20.4.8	1段 総高1.15×0.13×0.13	
勝 山	C	51	(即如巡教記念植樹碑)	植樹	平成14.5.9	1段 総高0.99×0.15×0.15	
勝 山	C	52	百万本植林記念碑	植樹	昭和37.8	2段 総高1.73×2.10×0.35	
野 向	E	14	官行造林植栽記念碑	植樹	昭和2.11	3段 総高2.08×0.65×0.35	
荒 土	G	20	植樹記念	植樹	無	1段 総高1.14×0.66×0.46	
荒 土	G	21	記念樹	植樹	(大正) 4.9	2段 総高1.13×0.25×0.17	
荒 土	G	22	(記念植樹)	植樹	平成14.5.9	1段 総高0.89×0.15×0.15	
荒 土	G	23	(創立二十周年記念植樹)	植樹	平成6.8	1段 総高1.01×0.16×0.16	
平泉寺	A	37	常夜燈	常夜灯	嘉永4.9	2段 総高2.53×0.53×0.46	
勝 山	C	53	(毘沙門金灯籠)	常夜灯	万延1.10.5	総高 5.16	
野 向	E	15	永代常夜燈	常夜灯	大正13.9.吉日	1段 総高0.81×0.20×0.13	
鹿 谷	I	20	常夜燈	常夜灯	明治 (16.4)	2段 総高3.10×0.56×0.58	
勝 山	C	54	(元禄四年勝山神明社灯籠)	灯籠	元禄4.11	総高 1.47	
勝 山	C	55	(享保六年勝山神明社灯籠)	灯籠	享保6.初秋	総高 1.52	
勝 山	C	56	(尊光寺灯籠)	灯籠	元禄4.7.28	総高 0.80	
北 郷	H	16	(白山神社山王大権現灯籠)	灯籠	文久4	4段 総高1.82×0.23×0.23	
鹿 谷	I	21	(志田八幡社灯籠)	灯籠	万延1.6	3段 総高1.58	
鹿 谷	I	22	(杉俣八幡社灯籠)	灯籠	安永4.5.吉日	2段 総高1.78	
遅 羽	J	8	(蓬生白山神社灯籠)	灯籠	文政13.8.吉日	3段 総高1.15×0.25×0.25	
勝 山	C	57	一心講創立記念碑	講	明治30.3.10	2段 総高2.07×1.35×0.33	
野 向	E	16	(無尽さん)	講	無	1段 総高2.00×1.50×0.60	
猪野瀬	B	11	勝山消防組頭幹部功労者碑	功績	平成20.8.吉日	1段 総高0.60×1.40×0.15	
勝 山	C	58	校舎建築記念之碑	功績	明治44.5	3段 総高5.38×0.87×0.80	
野 向	E	17	頌徳記念	功績	無	2段 総高1.80×0.70×0.35	
鹿 谷	I	19	公德碑	功績	無	2段 総高2.13×1.20×0.96	
平泉寺	A	38	(芭蕉句碑)	句碑	無	2段 総高1.91×0.70×0.40	
平泉寺	A	39	(櫻鳥会句碑)	句碑	昭和52.吉日	2段 総高1.44×2.43×0.24	元は駐車場に有
平泉寺	A	40	(素史・浪華句碑)	句碑	平成12.12.吉日	2段 総高0.70×0.67×0.47	

地 区	記号	番	名 称	分 類	設置年月日	寸 法	備 考
猪野瀬	B	12	(主藤素史句碑)	句碑	無	2段 総高0.97×0.38×0.16	
猪野瀬	B	13	(松瀬青々句碑)	句碑	無	2段 総高1.48×0.42×0.25	
猪野瀬	B	14	(伊藤柏翠句碑)	句碑	無	2段 総高1.37×0.60×0.43	
猪野瀬	B	15	(芭蕉句碑)	句碑	平成18	1段 総高0.91×0.57×0.76	プレート
勝 山	C	59	(樗鳥会句碑)	句碑	昭和39	1段 総高2.67×1.71×0.15	
勝 山	C	60	なでしこ塚	句碑	明治31.5.22	3段 総高2.21×0.43×0.29	
勝 山	C	61	(帰雲坊碑)	句碑	無	2段 総高0.79×0.78×0.29	
勝 山	C	62	(明覚寺句碑)	句碑	無	2段 総高1.75×0.27×0.24	
勝 山	C	63	(開善寺句碑)	句碑	大正5.10	1段 総高0.90×0.56×1・00	
野 向	E	18	紅梅塚	句碑	無	1段 総高1.33×0.46×0.22	
野 向	E	19	桜塚	句碑	明治20.春 4.10	1段 総高1.03×0.61×0.27	
北 郷	H	17	(下萌句会碑)	句碑	平成14.11.吉日	1段 総高1.24×1.36×0.12	
平泉寺	A	41	開祖泰澄大師廟	泰澄	大正14.4	2段 総高1.50×0.32×0.19	
平泉寺	A	42	(昭和三十四年 白山社式年祭)	泰澄	昭和34	1段 総高2.30×0.97×0.18	
平泉寺	A	43	(平成四年 白山社式年祭)	泰澄	平成4	1段 総高1.83×1.33×0.16	
猪野瀬	B	16	泰澄大師御生母廟	泰澄	昭和34.4	2段 総高2.41×0.80×0.70	
猪野瀬	B	17	(八角塔)	泰澄	延宝8.3.18	2段 総高0.72×0.63×0.16	
北 郷	H	18	(泰澄大師千三百年記念碑)	泰澄	昭和48.8	2段 総高2.07×0.34×0.15	
北 郷	H	19	(上田三平氏調査記念碑)	泰澄	大正9.11.30	1段 総高1.95×0.60×0.40	
北 郷	H	20	再建記念之碑	泰澄	平成4.10.吉日	2段 総高1.93×1.00×0.35	
平泉寺	A	44	高松宮殿下御手植	皇室	昭和32.11.12	1段 総高0.90×0.15×0.14	合計 3 基
平泉寺	A	45	皇太子殿下御成婚記念	皇室	昭和34.4	1段 総高0.84×0.1×0.13	
平泉寺	A	46	元正天皇御齒髮塚	皇室	昭和58.10.吉日	2段 総高1.47×0.42×0.30	
平泉寺	A	47	元正天皇御齒髮塔奉修記念碑	皇室	昭和15.7.20	3段 総高2.17×0.80×0.10	
平泉寺	A	48	元正天皇御齒髮塔	皇室	昭和15.7.20	3段 総高1.93×0.30×0.2	
平泉寺	A	49	(岩ヶ野神明神社灯籠)	御大典	昭和3.9	総高2.30	
勝 山	C	64	御大典記念	御大典	昭和3	総高3.30	
勝 山	C	65	御大典記念	御大典	昭和3.5	総高2.65	
勝 山	C	66	御大典記念	御大典	昭和3.10		
村 岡	D	15	御大典記念	御大典	昭和3.11	4段 総高1.58×0.48×0.48	狛犬1.30
村 岡	D	16	御大典記念	御大典	昭和3	総高 2.80	
荒 土	G	24	御即位御大禮記念碑	御大典	大正4.9	4段 総高2.86×0.76×0.31	
荒 土	G	25	大典記念碑	御大典	大正4.9	3段 総高2.78×1.13×0.22	
北 郷	H	21	御大典記念碑	御大典	大正4.10	4段 総高2.88×1.10×0.60	
北 郷	H	22	御大典記念	御大典	昭和3.	総高2.10	
北 郷	H	23	御大典記念	御大典	昭和4.9.吉日	3段 総高2.68×0.71×0.53	
北 郷	H	24	御大典記念碑	御大典	大正4.11.吉日	3段 総高3.81×1.50×0.43	
鹿 谷	I	23	御大典記念	御大典	昭和3.9	3段 総高3.30×0.41×0.27	
村 岡	D	17	皇紀二千六百年	皇紀二千六百年	昭和15	総高 3.70	
鹿 谷	I	24	皇紀二千六百年記念	皇紀二千六百年	昭和15	総高 4.00	
勝 山	C	67	神馬	戦役	昭和10.6		
村 岡	D	18	明治三十七八年戦役記念	戦役	明治39.8	4段 総高1.30	
野 向	E	20	(日露戦役従軍碑)	戦役	明治41.9	2段 総高1.83×0.30×0.18	
北 谷	F	8	木根橋出兵念忠碑	戦役	明治36.10	3段 総高2.89×0.63×0.28	
北 郷	H	25	大東亜戦争必勝祈願	戦役	昭和17.4.21	4段 総高2.33×0.80×0.17	
北 郷	H	26	明治三十七八年戦役記念	戦役	(明治)	総高2.20	
北 郷	H	27	(入営記念碑1)	戦役	昭和13.8	2段 総高0.57×0.12×0.15	埋込プレート
北 郷	H	28	(入営記念碑2)	戦役	昭和13.8	1段 総高1.38×0.28×0.31	
北 郷	H	29	(青年会退会記念碑)	戦役	無	1段 総高1.47×0.27×0.27	左側 2 基は埋込プレート
平泉寺	A	50	蓮如上人御舊跡	高僧	文政10.1.25	2段 総高1.54×0.26×0.34	
平泉寺	A	51	蓮如上人御舊跡	高僧	無	3段 総高1.37×0.57×0.21	
平泉寺	A	52	(慈観墓)	高僧	無	1段 総高1.53×1.66×0.39	
勝 山	C	68	(蓮如五百回忌法要記念)	高僧	平成12.5	1段 総高1.21×0.24×0.21	
勝 山	C	69	蓮如上人遺蹟	高僧	明治8.6	3段 総高2.29×0.77×0.40	
村 岡	D	19	蓮如上人御掛錫	高僧	無	2段 総高1.27×0.74×0.23	
村 岡	D	20	(弘法大師碑)	高僧	昭和52	1段 総高0.69×0.18×0.10	
野 向	E	21	蓮如上人御掛錫	高僧	無	1段 総高0.97×0.20×0.10	
野 向	E	22	蓮如上人御舊跡	高僧	昭和57.4.吉日	2段 総高2.08×0.35×0.23	
野 向	E	23	蓮如はん清水	高僧	昭和57.4.吉日	2段 総高1.19×0.27×0.23	
荒 土	G	26	親鸞聖人尊像	高僧	昭和44.11.吉日	1段 総高1.03×0.15×0.21	しんらんさま碑 と親鸞像有
荒 土	G	27	(れんによさま碑)	高僧	平成10.9.4	1段 総高1.00×0.15×0.16	
北 郷	H	30	蓮如上人虎尾尊號	高僧	文明34.中旬	3段 総高2.36×0.64×0.22	
北 郷	H	31	蓮如上人御腰掛石	高僧	無	1段 総高1.25×1.75×0.90	

地 区	記号	番	名 称	分 類	設置年月日	寸 法	備 考
北 郷	H	32	蓮如上人立像	高僧	昭和50.8.吉日	1 段 総高0.71×0.18×0.18	
北 郷	H	33	蓮如上人藤懸之名號御舊跡	高僧	無	2 段 総高1.62×0.24×0.24	
鹿 谷	I	25	蓮如上人御舊跡	高僧	昭和49.12.吉日	3 段 総高2.46×0.21×0.13	
鹿 谷	I	26	弘法大師御休跡地	高僧	大正13.3	2 段 総高0.94×0.16×0.15	
平泉寺	A	53	(法華塔)	宗教民俗	無	3 段 塔身1.40	
平泉寺	A	54	納骨堂 (塔)	宗教民俗	無	4 段 総高4.61×0.93×0.53	
平泉寺	A	55	御経台	宗教民俗	無	2 段 総高1.10×0.50×0.60	
平泉寺	A	66	ふりむき地藏	宗教民俗	平成20.5	2 段 総高0.59×0.30×0.08	
猪野瀬	B	18	遠慶宿縁	宗教民俗	無	1 段 総高1.65×1.58×0.90	
猪野瀬	B	19	百世同穴之碑	宗教民俗	無	3 段 総高0.83×0.25×0.16	
猪野瀬	B	20	(法華塔)	宗教民俗	無	総高2.95	
勝 山	C	70	聖徳太子之塔	宗教民俗	明治35.5	3 段 総高4.02×0.75×0.44	
勝 山	C	71	(勝山太子堂由来碑)	宗教民俗	平成20.3	3 段 総高2.13×1.82×0.15	
勝 山	C	72	(閻魔堂経塚)	宗教民俗	無	2 段 総高1.51×0.40×0.60	
勝 山	C	73	(五千部成就碑)	宗教民俗	寛延1.9	2 段 総高2.24×0.36×0.60	
勝 山	C	74	石敢当	宗教民俗	無	1 段 総高0.71×0.20×0.19	
村 岡	D	21	清邪碑	宗教民俗	無	2 段 総高0.93×0.52×0.30	
村 岡	D	22	(松村氏之墓)	宗教民俗	天保8	1 段 総高2.10×1.10×0.07	
野 向	E	24	(越戸峠地藏尊)	宗教民俗	永禄4.閏3	3 段 総高1.60×0.67×0.68	
北 谷	F	9	(不動明王坐像)	宗教民俗	天文20.7.吉日	1 段 総高0.395×0.26	
荒 土	G	28	夜泣き地藏 (由緒)	宗教民俗	平成22.5.2	2 段 総高0.76×0.64×0.55	地藏
鹿 谷	I	27	俱会一處	宗教民俗	昭和49.11	4 段 総高2.58×0.39×0.36	
遅 羽	J	9	(線刻大日如来像)	宗教民俗	元禄2.8	総高1.35 巾2.90	
平泉寺	A	56	(日本廻国供養塔)	回国	明治23.10	3 段 総高1.99×0.39×0.30	
平泉寺	A	57	四国西国秩父坂東其他霊場 順拝供養塔	回国	明治28	2 段 総高1.45×0.57×0.43	
平泉寺	A	58	四国西国順拝供養塔	回国	昭和3.4	3 段 総高2.15×0.67×0.35	
平泉寺	A	59	西国四国順拝紀念	回国	無	2 段 総高1.20×0.70×0.30	
平泉寺	A	60	西国四国順拝供養塔	回国	天保13	2 段 総高0.87×0.48×0.21	
平泉寺	A	61	西国三十三所觀世 (囀囀 ■■■)	回国	昭和4.7	2 段 総高2.10×0.30×0.16	
勝 山	C	85	四国西国巡拝供養塚	回国	明治34.3	3 段 総高1.79×0.28×0.27	
平泉寺	A	62	三界萬霊等	萬霊塔	無	2 段 総高2.24×0.70×0.46	
猪野瀬	B	21	三界萬霊等	萬霊塔	無	総高0.91	
勝 山	C	75	法界萬霊	萬霊塔	判読不能	2 段 総高1.82×0.40×0.40	
勝 山	C	76	三界万霊	萬霊塔	文政5	2 段 総高1.72×0.61×0.20	
勝 山	C	77	三界萬霊	萬霊塔	無	高さ3.30	
勝 山	C	78	三界萬霊	萬霊塔	無		別に1基
勝 山	C	79	三界萬霊	萬霊塔	文化1.3	2 段 総高1.98×0.80×0.60	
勝 山	C	80	三界萬霊	萬霊塔	平成10.5	4 段 総高3.36×0.50×0.24	
勝 山	C	81	三界萬霊等	萬霊塔		3 段 総高2.11×0.43×0.38	
平泉寺	A	63	南无阿彌陀佛	供養	文政	3 段 総高1.55×0.45×0.32	
平泉寺	A	64	南無阿弥陀佛	供養	明治	3 段 総高2.04×0.91×0.28	
平泉寺	A	65	南無阿弥陀佛	供養	明治	3 段 総高1.20×0.61×0.60	
猪野瀬	B	22	(災害供養碑)	供養	文政8.2	2 段 総高2.39×0.79×0.20	
猪野瀬	B	23	村社八幡神社	供養	大正14.9	2 段 総高1.43×1.35×0.24	
勝 山	C	82	(天明飢饉供養碑 天保飢 饉供養碑)	供養	無	天明 総高1.50×0.73×0.22 天保 総高1.55×0.64×0.23	元沢三味にあり
勝 山	C	83	(墓碑復興誌碑)	供養	大正15.3	1 段 総高0.63×1.36×0.13	
勝 山	C	84	(供養碑移転記念碑)	供養	昭和48.3	2 段 総高0.81×0.96×0.12	
村 岡	D	23	(七人塚)	供養	元禄4.7.29	3 段 総高2.35×0.55×0.20	
北 谷	F	10	(天保飢饉供養碑)	供養	天保15	3 段 総高1.87×0.32×0.24	
北 谷	F	11	取立山板碑	供養	昭和55.11.3	2.50×1.55	埋込プレート
遅 羽	J	10	南无阿彌陀佛	供養	嘉永5.3	2 段 総高3.52×2.00×0.35	
遅 羽	J	11	南无阿弥陀佛	供養	明治26.12	2 段 総高1.23×0.61×0.43	
猪野瀬	B	24	時雨堂	その他	無	2 段 総高1.45×0.75×0.75	
猪野瀬	B	25	(町村境界碑)	その他	無	1 段 総高0.29×0.12×0.12	
勝 山	C	86	(帰国記念碑)	その他	昭和35.4	2 段 総高1.44×0.59×0.11	
北 郷	H	34	畑時能公殉節之地	その他	無	2 段 総高2.77×1.40×0.35	
北 郷	H	35	畑時能之像	その他	昭和49.5.吉日	2 段 総高1.08×0.45×0.45	
鹿 谷	I	14	記念碑	その他	平成6.12.吉日	3 段 総高1.96×0.55×0.14	
村 岡	D	24	(北若連中寄進碑)	その他	明治42.10	1 段 総高2.40×0.31×0.25	
北 谷	F	12	(土地寄附碑)	その他	無	1 段 総高0.68×0.29×0.20	
鹿 谷	I	28	(若連中寄進碑)	その他	無	3 段 総高3.08×0.90×0.34	
遅 羽	J	12	(不動尊(德)之碑)	その他	明治	4 段 総高2.44×0.68×0.24	

野向町横倉に最近「横倉小学校跡」の碑が建てられた。北谷町には国道157号線沿いに元の跡地とは異なるが「中尾発電所記念碑」が建つ。同町木根橋には「火葬場跡」の碑が建ちそばには飢饉碑もある。

鹿谷町では保田に「甲淵小学校跡」が、本郷に「鹿溪小学校跡」の碑が建てられている。発坂に「大門跡」の碑があるが由来は不明である。遅羽町には大袋に「旧遅羽村役場跡」と「保育所跡」の碑が、北山には「北山惣社跡」の碑が建てられている。特殊なものとして「坂東島鉾山跡」が、北郷町坂東島の笠松平左衛門家の敷地に建つ。

神社造営の碑 神社そのものの移転や社殿の造営、敷地や参道の改修など、神社の造営にかかわる碑12基をここにまとめた。敷地の提供、遷座にともなう土地の寄進、社殿の造営や参道整備など、寄進者のそうした行為を、名前も含めて後世に残すため建てられたものが多い。

猪野の白山神社には造成事業・社殿建設に際して、その経緯と寄進者名を記した碑が2基建つ。村岡町滝波の白山神社のものは旧鳥居寄進を記念したもの、横倉の白山神社の碑は神社再建事業に賛同した寄進者の名前を連記した碑である。野向町北野津保と荒土町別所の白山神社の碑は、遷座にともなう敷地寄附を顕彰するため建てられた。同町堀名中清水の日吉神社には社殿造営を記念したものが、同町布市の澤田神社には社殿造営の功績を讃えたものが建てられている。

北郷町伊知地の白山神社には新志倶楽部のメンバーが、入口付近の建造物を寄附したことを記念した碑が建つ。坂東島の坂東神社には、敷地と参道一式を寄進した記念碑が2基建っている。岩屋には岩屋観音堂に至る参道改修を記念した碑が建てられている。神社の造営にかかわるものではないのでその他に含めたが、鹿谷町保田に工業団地造営を記念した碑がある。

神社由緒の碑 同じように神社に関係した碑で、神社の由緒を述べたものをここにまとめた。平泉寺町に2基、猪野瀬地区と村岡町に1基ずつありいずれも神社境内に建てられている。平泉寺の白山神社境内には平泉寺48社の一つであった鎮守宮の由緒碑が、同じく同町壁倉の八幡社境内には、

八幡社と村の由来も含めて説明を施した碑が建てられている。

旧毛屋区には下毛屋・猪野毛屋両村で祀っていた八幡神社の由緒を記した碑が境内に建つ。村岡町黒原の白山神社境内には同社と黒原村の由来を記した奉納碑が建てられている。

道標 道路の分岐点にあたる道筋にはかつてかなりの数の道標が建てられていた。しかし道路拡張工事等でその多くが破壊され現在はほとんど残っていない。鹿谷町の北西俣に美山に向かう道沿いに「芦見道」の碑が2基残る。旧町内にも立石町に2基が芳野町に1基が残る。立石の1基は宝暦四年（一七五四）のもので「坂谷みち 平せし道」とあり、もう1基は大正三年のもので「平泉寺道ヨリ三丁」と記されている。芳野のものは「白山道 中橋道」と記され明和三年（一七六六）に建てられものと思われる。

説明・案内の碑 関係する碑は平泉寺町に5基、勝山町に3基、村岡山に2基、別所の賢勝寺に2基、伊知地に1基、保田に2基の計15基見られる。歴史的に由緒のある地名・場所・建物などの由来や由緒を記す。またその地点に至る案内も含めて説明を施した碑もここにまとめた。

平泉寺町の5基のうち4基は白山神社の境内に建つ。菩提林に入り石畳道の入口に昭和七年の「旧参道」の碑が、しばらく進むと「牛岩馬岩」の碑が、さらに進むと「日本の道百選」に選ばれたことを記念する、「平泉寺白山神社参道」の記念碑が建つ。

精進坂を登ってすぐ左手に「下乗」の碑が建つ。これは車馬の乗り入れの禁止、乗り物を降りるようにと指示するため建てられたものであろう。同町の太矢谷には「光明寺参道」の碑が、檀家の有志の人たちにより建てられた。光明寺は真宗大谷派の寺院で、明治十二年に寺号を許可され当地を中心に218人の信徒があった。

勝山町のものとしては市立図書館前に「からくり時計」の碑がありその由来を記す。市民会館中庭には庭園の形式等について説明する碑が、後町の「大清水」の碑も同様にその由来等を記す。

村岡山に登る入口に「四国八十八ヶ所登り口」の碑が建ち、観音講の世

野向町横倉に最近「横倉小学校跡」の碑が建てられた。北谷町には国道157号線沿いに元の跡地とは異なるが「中尾発電所記念碑」が建つ。同町木根橋には「火葬場跡」の碑が建ちそばには飢饉碑もある。

鹿谷町では保田に「甲淵小学校跡」が、本郷に「鹿溪小学校跡」の碑が建てられている。発坂に「大門跡」の碑があるが由来は不明である。遅羽町には大袋に「旧遅羽村役場跡」と「保育所跡」の碑が、北山には「北山惣社跡」の碑が建てられている。特殊なものとして「坂東島鉾山跡」が、北郷町坂東島の笠松平左衛門家の敷地に建つ。

神社造営の碑 神社そのものの移転や社殿の造営、敷地や参道の改修など、神社の造営にかかわる碑12基をここにまとめた。敷地の提供、遷座にともなう土地の寄進、社殿の造営や参道整備など、寄進者のそうした行為を、名前も含めて後世に残すため建てられたものが多い。

猪野の白山神社には造成事業・社殿建設に際して、その経緯と寄進者名を記した碑が2基建つ。村岡町滝波の白山神社のものは旧鳥居寄進を記念したもの、横倉の白山神社の碑は神社再建事業に賛同した寄進者の名前を連記した碑である。野向町北野津保と荒土町別所の白山神社の碑は、遷座にともなう敷地寄附を顕彰するため建てられた。同町堀名中清水の日吉神社には社殿造営を記念したものが、同町布市の澤田神社には社殿造営の功績を讃えたものが建てられている。

北郷町伊知地の白山神社には新志倶楽部のメンバーが、入口付近の建造物を寄附したことを記念した碑が建つ。坂東島の坂東神社には、敷地と参道一式を寄進した記念碑が2基建っている。岩屋には岩屋観音堂に至る参道改修を記念した碑が建てられている。神社の造営にかかわるものではないのでその他に含めたが、鹿谷町保田に工業団地造営を記念した碑がある。

神社由緒の碑 同じように神社に関係した碑で、神社の由緒を述べたものをここにまとめた。平泉寺町に2基、猪野瀬地区と村岡町に1基ずつありいずれも神社境内に建てられている。平泉寺の白山神社境内には平泉寺48社の一つであった鎮守宮の由緒碑が、同じく同町壁倉の八幡社境内には、

八幡社と村の由来も含めて説明を施した碑が建てられている。

旧毛屋区には下毛屋・猪野毛屋両村で祀っていた八幡神社の由緒を記した碑が境内に建つ。村岡町黒原の白山神社境内には同社と黒原村の由来を記した奉納碑が建てられている。

道標 道路の分岐点にあたる道筋にはかつてかなりの数の道標が建てられていた。しかし道路拡張工事等でその多くが破壊され現在はほとんど残っていない。鹿谷町の北西俣に美山に向かう道沿いに「芦見道」の碑が2基残る。旧町内にも立石町に2基が芳野町に1基が残る。立石の1基は宝暦四年（一七五四）のもので「坂谷みち 平せし道」とあり、もう1基は大正三年のもので「平泉寺道ヨリ三丁」と記されている。芳野のものは「白山道 中橋道」と記され明和三年（一七六六）に建てられものと思われる。

説明・案内の碑 関係する碑は平泉寺町に5基、勝山町に3基、村岡山に2基、別所の賢勝寺に2基、伊知地に1基、保田に2基の計15基見られる。歴史的に由緒のある地名・場所・建物などの由来や由緒を記す。またその地点に至る案内も含めて説明を施した碑もここにまとめた。

平泉寺町の5基のうち4基は白山神社の境内に建つ。菩提林に入り石畳道の入口に昭和七年の「旧参道」の碑が、しばらく進むと「牛岩馬岩」の碑が、さらに進むと「日本の道百選」に選ばれたことを記念する、「平泉寺白山神社参道」の記念碑が建つ。

精進坂を登ってすぐ左手に「下乗」の碑が建つ。これは車馬の乗り入れの禁止、乗り物を降りるようにと指示するため建てられたものであろう。同町の大矢谷には「光明寺参道」の碑が、檀家の有志の人たちにより建てられた。光明寺は真宗大谷派の寺院で、明治十二年に寺号を許可され当地を中心に218人の信徒があった。

勝山町のものとしては市立図書館前に「からくり時計」の碑がありその由来を記す。市民会館中庭には庭園の形式等について説明する碑が、後町の「大清水」の碑も同様にその由来等を記す。

村岡山に登る入口に「四国八十八ヶ所登り口」の碑が建ち、観音講の世

話人の名前が連記され、山頂にいたる小道の両脇には石仏が並べられている。山頂には「村岡城」と記された碑が建つ。別所の賢勝寺境内には当寺の来歴について記された由緒碑、それと関連した「俱会精舎」碑が建つ。伊知地の畑ヶ塚には伊知地の名の由来の碑が建てられている。鹿谷町には2基見られ保田駅を降りてしばらく進むと、蓮如旧跡の「硯水の池」に至る案内の碑、「蓮如上人御旧跡所」が建つ。同区の中には「保田時計台」の説明碑が建てられている。

故郷を偲ぶ碑 ふるさとを偲んで建てられた碑は4基ある。名称そのものが「ふるさとの碑」とついたものは横倉にあり、これは昭和三十八年に横倉部落を襲ったあわで亡くなった16人の方の慰霊のため建てられた。碑には奥村和子さんの「ふるさとの歌」の歌詞が刻まれている。法恩寺山有料道路の途中に建つ碑は、芳野原開拓に携わった22名の方が、リゾート開発のため土地を去ることになり、その記念に建てたものである。

中野俣の「望郷」の碑は、村そのものが昭和三十九年に廃村となり、村が存在した証としてかつての道場跡に建てられている。個人で建てられものとしては平泉寺町に「望郷」の碑が1基ある。

行政・団体にかかわる碑 市制四十周年を記念するものや置県百年にかかわるものなど、主に行政にかかわるものと、ロータリークラブにかかわるものをここにまとめた。埋め込みプレートのかたちで文章が記されているものが多い。前者にかかわるものは中央公園に3基と市役所前に1基が建つ。後者の事例は長山公園と中央公園に3基見られる。

植樹記念の碑 9基の事例が見られるがそのほとんどは記念植樹の碑である。記念の意味合いは様々で、うち3基は寺院境内に建ち真宗門主の順教にちなむもの、1基は荒土町松田の白山神社に建ち、大正天皇の即位を記念したものである。一本松の「百万本植林記念碑」は、勝山市が市有林の植林百万本達成を記念し建てたものである。

「官行植栽造林記念碑」は野向町牛ヶ谷の山中にあり、官有林が野向村有林となったことを記念し建てられた。平泉寺には還暦記念に建てたもの

が1基あり、その他秩父宮様来勝に際してのもの、皇太子ご成婚記念のものがあるがこれは皇室に入れた。経緯の不明なものも2基ある。

常夜灯の碑 常夜灯とは文字通り一晩中つけておくあかりのことで、市内には4基の碑が見られる。それぞれ何らかの事情があり建てられたと思われるが、由来の文章はなく寄進者の名前を記すにすぎない。闇夜の暗さの恐怖を和らげるために、なかでも夜の火災は被害を大きくするため、その防止の意味もこめて建てられたものであろう。

平泉寺白山神社の碑が最も古く嘉永四年（一八五一）に、矢戸口のもものは摩耗が激しいが明治十六年に、龍谷公園の永代常夜灯は大正十三年の建設である。石碑とは言えないが市の指定文化財にもなっている毘沙門の金灯籠もここにあげた。正式には秋葉山常夜灯でその名が示す通り、防火のため町の氏子たちが寄付を募り、越中高岡の鋳物師の手で鑄造された。

灯籠 ここには近世にまで遡るものに限り7基をとりあげた。最も古いのは勝山神明社の元禄四年のもので「惣家中」とある。小笠原氏が勝山入部の際、町の氏神としての神明社に敬意を表し寄進したものである。同じく尊光寺には破損しているが同年のものが残り、寄進者として袋田町の町年寄をつとめた安田十兵衛および源清（安田宗三良）が記されている。神明社には享保六年（一七二一）のものも残り、これは藤田太兵衛事件にも関係の深い中屋彦七郎と、沢屋孫三郎の寄進になるものである。

伊知地の白山神社の灯籠は文久四年（一八六四）のもので「惣若連中」とある。鹿谷町には志田と杉俣の両八幡社に残っている。前者は万延元年（一八六〇）に「六十六部」が寄進とあり、後者は「安永四年（一七七五）」とのみある。その他に分類したが、志田の八幡社入口には「村社八幡神社」の碑が建ち、裏には「若連中」と記されている。同様に滝波の白山神社に「村社白山神社」の碑が建ち、裏に「北若連中」とある。遅羽町蓬生の白山神社には文政十三年（一八三〇）のものが残り、「福井施主斎藤六右衛門」とある。

講にかかわる碑 講にかかわるものは長山公園入口付近に1基、北野津

又の山中に1基の計2基見られる。前者は明治三十年のもので「一身講創立記念碑」とあり、講元白木治助、他に世話人24人と献石寄附人の名前が刻まれている。後者は2メートル余の巨石に、「无盡：」以下の文字が刻まれているが摩耗が激しく正確に判読できない。通称「無尽さん」として市の指定文化財になっている。

功績碑 若猪野の「消防組頭幹部功労者碑」は、人物碑におさめた猪野瀬消防組頭の「長谷川光君碑」の傍らに建つ。この碑に小頭として名前が記されている人物の子、あるいは孫に当たる人たちの名が連ねられている。市民会館の横に建つ「校舎建築記念之碑」は、成器女子校の改築に功績のあった野村徳七の功績を記したものである。人物に入れてもよいが表記に従いここに分類した。

北野津俣の白山神社にある「頌徳記念」碑は、神社に花立台・鳥居を寄附した3人の功績を讃えて建てられたものである。東遅羽の白山神社の「公德碑」も、同じような趣旨から建てられたと思われるが人物名は記されていない。

句碑 句碑は設置年月日が記されていないもの8基を含め15基が市内に残り、俳句作りの盛んな勝山の土地柄がうかがえる。平泉寺町の芭蕉句碑、野向町の紅梅塚、後町の明覚寺の句碑を除き他は明治以降に建てられたものである。

勝山が生んだ俳人で幕末から明治にかけて活躍した比良野帰雲坊にかかわる碑は、龍谷公園と国泰寺にそれぞれ2基ずつ建てられている。同じく勝山出身で明治から昭和にかけて活躍した首藤素史と師の松瀬青々碑、同じく青々門下の高木浪華らの碑は平泉寺町や長山公園に見られる。素史や青々の影響を受けた檜鳥会の句碑も、同じく長山公園・平泉寺観音堂境内に建つ。また片瀬の仏母寺には単独で素史と青々碑が建ち、そのほか伊藤柏翠と芭蕉句碑も建つ。

北郷公民館の下萌句会碑は北郷地区のホトトギス同人の人たちの句碑である。明覚寺の灯籠には尊光寺住職常我坊ら3人の句が読まれている。ま

た沢町の開善寺の句碑にはよなき石がよまれている。

泰澄大師（白山信仰）にかかわる碑 泰澄大師にかかわる碑や大師が開いたとされる白山信仰にかかわる碑8基をここにまとめた。平泉寺白山神社の精進坂の手前その左手に泰澄の墓塔があり、その入口には大正十四年に建設された泰澄大師廟の碑が建つ。境内に入り宝物館の横に白山神社式年大祭の碑が2基建つ。これは33年に一度の河上御前開帳を記念し建てられたものである。昭和三十四年と平成四年の氏子寄附者の名列が記されている。

旧下毛屋地籍には石塔5基と五輪塔2基からなる泰澄母の墓所がある。その手前に「泰澄大師御生母廟」が昭和三十四年に建てられた。墓所は史蹟として市の指定文化財となっている。同じく片瀬の大師山頂の伏拝みといわれる場所に延宝八年（一六八〇）銘の八角塔が建っている。遠く白山を仰ぎ見ることができる場所であるとして建てられたものである。岩屋は白山禪定の道筋にあたり、境内の観音堂には如意輪観音と聖観音が祀られていた。盗難に遭い現在は不明であるがこの観音にちなんだ碑が境内に3基建っている。

皇室にかかわる碑 いずれも平泉寺町に建ち平泉寺白山神社境内に4基、平泉寺共同墓地に3基の計7基が見られる。神社境内には高松宮殿下が昭和三十二年・四十八年・五十年の3度にわたり来勝されたおり、御手植えされたことを記念して建てられたものが3基、皇太子殿下（現天皇陛下）が昭和三十四年に結婚されたことを記念して建てられたものが1基建つ。

共同墓地の碑は泰澄が元正天皇の病を治された伝承にちなんで建てられたものである。元正天皇齒髪塔（塚）と記されたものが3基ある。うち2基は昭和十五年に皇紀二千六百年を記念して、1基は同五十八年に建てられた。平泉寺墓地は墓地そのものが史蹟として市の指定文化財となっている。

御大典記念の碑 大正天皇と昭和天皇の御大典はそれぞれ大正四年十一

月十日と、昭和三年十一月十日に京都御所で行われた。御大典は御大札と
もいい天皇の即位の礼と大嘗祭、これら一連の儀式を合わせたものである。
これを記念して全国的に碑が建てられ、勝山市内にはいずれも神社境内に
13基見られる。それぞれ大正のものが4基で昭和のものが9基である。

平泉寺町岩ヶ野の神明神社境内のものは（神灯）奉納の形で建てられて
いる。勝山神明社には鳥居と狛犬（2対）が個人の寄付により、光明院に
は神灯が外地青年会の寄付で建てられている。

この碑は獅子を対で建造する例が多く、村岡町浄土寺の水上神社と同町
滝波の白山神社、北郷町東野の大剣神社などにその例が見られる。鳥居を
寄進する例としては、伊知地の白山神社の例がある。鳥居のそばに発起人・
世話人・寄進人の名前を連記した碑も別に建てられている。北西俣の白山
神社の入口に「白山神社」の碑が建ち、碑の側面・裏面に「御大典記念」
と刻み寄進者の名前が連記されている。

「御大典記念碑」として石碑そのものを建てている例は3つあり、先の
大剣神社の碑と別所の白山神社、坂東島の坂東神社の碑で、いずれも大正
4年のものである。松田の白山神社には「御即位御大札記念碑」があり、
これは青年団の寄附になる。大典記念碑は個人・団体の寄付により建てら
れたものが多く、北郷町のもは村の青年団が中心になり建造している。

皇紀二千六百年記念碑 昭和十五年は皇紀二千六百年に当たる年であ
る。大戦最中で国威発揚の意味もあり、神武天皇即位二千六百年を記念し
全国的に式典が催された。市内にはその記念碑が滝波の白山神社と、矢戸
口の水上神社に2基残る。いずれも御神灯の形で個人の寄付で建てられた
ものである。

戦役記念の碑 日本は明治維新以後数々の戦争を経験しその多くは海外
で戦闘を行った。忠魂碑については別に章を設けて述べたが、ここでは入
営に関するものや無事帰還しその功績を顕彰する碑を中心に見ていく。

木根橋道場前に建つ碑は最も古いもので明治三十六年の銘がある。同十
年の西南戦争から同二十七年の日清戦争に出征し戦死を遂げた同村出身者

の霊を弔うため建てられた。同じく三十七、三十八年の日露戦争に従軍し
無事帰還した兵士の功績を記した碑は3基見られる。それぞれ村岡町浄土
寺の水上神社、北野津又の白山神社、東野の大剣神社の境内に建てられて
いる。その多くは従軍者自らがあるいは村の有志が中心となって御神灯の
形で建てている。

東野の大剣神社には昭和十七年に開始された大東亜（太平洋）戦争の必
勝を祈願し、大阪在住の有志が建てた碑が残る。また勝山神明社境内には
金銅製の神馬が建っているが、これは昭和十年に建てられたもので、一旦
戦争中に供出され戦後同四十八年に平和を祈願し再建されたものである。

坂東島の坂東神社にコンクリートの石柱にプレートで打ち付けた「入営
記念碑」が残る。珍しいもので純粋には石碑とは言えないが、昭和十三年
に徴兵されそれを記念して建てたものである。3基あり別に同一人物の名
で刻まれた青年会を退会する碑も1基ある。

高僧の碑 蓮如上人旧跡碑を中心に高僧の碑をここにまとめた。市内に
は蓮如上人にかかわる碑が非常に多く、説明を施した像なども含めると14
基見られる。名称は少しずつ異なるがいわゆる「御掛錫」や「腰掛石」と
いわれる碑が大部分である。蓮如が布教の途中に立ち寄ったとの伝承をも
とにしており、碑そのものは昭和に入ってからのもが多い。

特殊なものとして平泉寺町の西念寺入口に建つ「蓮如上人旧跡」の碑は、
文政十年に江戸の住民が寄進したものである。北郷町森川の森川道場の碑
には「蓮如上人虎尾尊号」と刻まれている。慶恵寺の蓮如上人遺跡碑には「北
国見還之尊影」と刻まれている。現在は片瀬町にあるがもとは後町にあっ
たため勝山町に入れた

高僧の碑として3人の僧侶の碑4基もここに入れた。赤尾の「當山開基
大僧都慈観法印」墓は名称のみが記されている。なお慈観は平泉寺玄成院
第九世である。保田には「弘法大師御休跡地」の碑が、村岡山頂には「弘
法大師」と記された碑がある。村岡神社には四国八十八ヶ回りにちなんだ
碑もあり、これも弘法大師との関係で建てられたものであろう。別所賢勝

寺境内に「親鸞聖人尊像」が建ち、別に寄進人の名前等を記した説明碑と、「しんらんさま」と記した碑も2つ建つ。同じく「れんによさま」と記した碑の横に蓮如像も立っている。

宗教・民俗関係の碑 信仰にまつわる雑多なものを広く宗教ととらえ、民俗も含めて一括してここにまとめた。平泉寺の共同墓地にある「御経台」は、近くに元正天皇の碑などもあり泰澄とのかかわりで建てられたものであろう。平泉寺町の顕海寺には「法華塔」「納骨塔」の巨大な石塔が見られる。「ふりむき地蔵」は野辺送りにかかわるものである。

片瀬の大師山林道の入口付近には仏書の一節からとられた「遠慶宿縁」の碑が、仏母寺境内には「法華塔」と「百世同穴之碑」と読める碑が建つ。長山公園の太子堂前には毘沙門境内（その後開善寺）にあった太子堂の由来を記す碑と、「聖徳太子之塔」の石碑が建てられている。立石閻魔堂の前には「経塚一切含識」と刻まれた碑が建つ。閻魔堂は十王堂とも呼ばれ現在は八月第二土曜日に「閻魔はん祭り」が行われる。旧暦の六月十七日は「平泉寺夜籠」の祭礼日で、お堂は平泉寺道の通り筋に建ち、祭礼は夜籠の前夜祭として始まったものである。大蓮寺の門前入口には糸屋仁右衛門の寄進になる寛延元年（一七四八）銘の「五千部成就」の碑が建つ。元町交番の交差点左手には魔除けのための「石敢当」が建つが元はどこにあったかは不明である。

浄土寺にある「清邪碑」については由来がよくわからない。浄土寺からたらたら山に至る道の左手の山中に「松村氏」の碑が建つ。寛永十七年（一六四〇）以降の歴代の戒名などが墓石の全面に刻まれており、句も読まれていて特殊な碑といえる。北野津俣と竜谷を結ぶ道路沿いに永禄四年（一五六一）の銘のある「越戸峠地蔵尊」が祀られている。石碑とは多少趣がことなるがここに入れた。同じく別所の賢勝寺境内に「夜泣き地蔵（由緒）」の碑が建ち地蔵尊も祀られている。

北谷町谷の「不動尊石仏」は天文二十年（一五五二）の銘があり「慈明権少僧都」と記されている。石仏は「不動明王像」として、彫刻の位置付

けで市の文化財に指定されている。「俱会一処」の碑は各地に残るが、保田のものは九頭竜河の洪水で田畑を失い、この地を離れた家々の霊を祀るため建立したとある。

遅羽町下荒井の箱の渡し付近の大榎下の岩に、元禄二年の銘のある「線刻大日如来」が刻まれている。安全祈願の意味があるのかその由来は不明である。

回国碑 回国供養碑は平泉寺町に6基と勝山町に1基見られる。平泉寺のものはそれぞれ白山神社の境内と顕海寺境内に建てられていて、顕海寺の2基を除き他は近代以降のものである。「四国西国順拝」と記したものがほとんどで、菩提林に建つものは摩耗が激しく一部読めないが、境内の供養塔の建立者として名前を連ねる人物と重なる。

常夜灯の近くに建つ「六十六部日本廻国」の碑は、難解な文章で意味がつかみにくいが大意は以下のように解される。塔は元々紀州の殿様が建てたものであるとし、続いて碑文は六十六部が最後にこの平泉寺を参拝し、楠公の旧跡などを参拝して回ったと記す。しかし慶応二年（一八六六）の大風で塔が倒壊したため、改めてこの塔を再建したと断っている。勝山町のものは伯立院境内に建ち明治期のものである。

三（法）界萬靈塔（等） 三界とは欲界・色界・無色界のことで、萬靈等はこの世の有情・無情、さらに無縁の靈なども含めその供養のため建てられたものである。年未詳のもの比較的最近建てられたもの、これらを含め市内には10基残る。すべて寺の境内に建てられている。

供養碑 慰霊碑との区別がむずかしいがここには災害や飢饉、あるいは行倒れなどで亡くなった無名の人たちの霊を祀る碑を供養碑としてまとめた。「南無阿弥陀仏」とのみ刻まれ、その多くはかつて道の傍らに建てられていたのであろう。平泉寺町には白山神社の六地藏横、西国巡礼碑の横、鬼ヶ市の近く、合わせて3基が見られる。遅羽町には蓬坂登り口と三室神社入口に2基見られる。

同じく「南無阿弥陀仏」と刻まれているが、猪野口の碑は享保十一年（一

七二六)の女神川の大洪水で、犠牲となった人たちを供養するため建てられた。村社八幡神社にも水害二百年の記念碑が建つ。北部第4公園には天明・天保の飢饉供養碑が建てられている。その前面に大正十五年に建てられた「墓碑復興誌碑」があり、その由来が記されている。碑面に「南無阿弥陀仏」と刻まれた2基の供養碑は元々沢の三昧にあったものである。その後芳野町に移されたが、さらに都市区画整理で現在地に移された。そのため昭和四十八年に「供養碑移転記念碑」がまた別に建てられた。

村岡町郡の墓地には元禄四年の銘のある通称「七人塚」が建っている。碑面には「法界萬霊平等利益」と刻まれている。奥山の立入をめぐり勝山町と郡村など4村が争った。しかし判決は郡村の敗訴となり処刑者も出た。村人がその犠牲者と奔走した7人を顕彰供養するため建てたものであろう。

本根橋には天保の飢饉にかかる供養碑が、火葬場跡記念碑の近くに建てられている。国道157号線沿いには「取立山板碑」がある。碑には昭和二十五年に取立山で遭難した3人の行動記録などが記されている。岐阜県の白鳥に向かう旧和泉村の旧道脇にも「南無阿弥陀仏」と記された碑が建つ。「大野勝山商人中 世話方白鳥」とあり、安政五年(一八五八)の銘がある。

その他の碑 どの分類にも入りきらないものをその他としてとりあげた。猪野瀬の上高島の長谷川宅の道路に面して「時雨堂」の碑が建つが、これは同区の神社建立を記念して建てられた。下毛屋と旧勝山町の境界に勝山町、猪野瀬村とかかれた境界碑が建つ。長山公園に登る坂道左手には北朝鮮からの帰国を記念した「帰国記念之碑」が建つ。

経緯はわからないが北谷町谷の伊良神社境内に勝山町長を勤めた石畝喜兵衛が土地を寄附した碑が建つ。畑時能は人物でとりあげており、市内には鷺ヶ岳山頂と伊知地の畑ヶ塚(伊知地古戦場)にもそれぞれ1基建てられている。旧上志比村慶妙寺境内にも1基あることが知られている。関連するものとして伊知地の畑ヶ塚に「畑時能公殉節之地」の碑が、また岩屋の有志の人たちにより同地に「畑時能之墓」も建てられている。

志田の「八幡神社」の碑は既に取りあげた。また大袋の住吉神社には村の火災を契機に建てられたと思われる碑が建つ。裏面は判読可能であるが表の文字は判読が難しい。

2章 地区別に見た碑

この章では石碑を地区別に分けて紹介していく。1地区1節とし地区別石碑一覧表と、分布状態がわかる図も作成した。最初に地区全体の簡単な概要を述べ、続けて写真とその碑文を原文で紹介してある。人物碑を中心に一部のものには簡単な解説も付けた。エコミュージアム関係の石碑については3章で述べる予定であるが、分布図は地区ごとが望ましいと考え、併せて載せてある。

1節 平泉寺地区

地区内には人物碑10、忠魂碑2、一般碑55の計67基の石碑が建てられてい

表5 平泉寺地区石碑一覧

記号	番号	名 称	分類	場 所
A	1	(泰澄墓塔)	人物	白山神社境内
A	2	(楠木正成墓)	人物	白山神社境内
A	3	江端翁頌徳碑	人物	西念寺境内
A	4	(柳町如芥碑)	人物	白山神社境内
A	5	武内翁功労碑	人物	神明神社境内
A	6	(顕海墓)	人物	平泉寺共同墓地
A	7	(専海墓)	人物	平泉寺共同墓地
A	8	日海墓	人物	平泉寺共同墓地
A	9	山端祥玉君頌徳碑	人物	大渡白山神社境内
A	10	東海和尚	人物	笹尾
A	11	記功碑	忠魂	白山神社境内
A	12	忠魂碑	忠魂	白山神社境内
A	13	記念碑	一般	平泉寺（新入村）
A	14	記念碑	一般	平泉寺
A	15	記念碑	一般	平泉寺（北谷）
A	16	総合整備記念碑	一般	赤尾
A	17	記念碑	一般	壁倉
A	18	竣工記念碑	一般	岩ヶ野
A	19	疎水記念碑	一般	神明神社境内
A	20	簡易水道記念碑	一般	平泉寺
A	21	県道 巡見道改修記念碑	一般	平泉寺小学校校門
A	22	竣工記念碑	一般	大矢谷
A	23	荒神石橋	一般	平泉寺
A	24	荒神橋名由来	一般	赤尾
A	25	「弁財天大橋」名の由来	一般	岩ヶ野
A	26	(正光山空心房跡の碑)	一般	赤尾
A	27	竺峰庵之跡	一般	岩ヶ野
A	28	弁財天堂趾	一般	岩ヶ野橋下
A	29	(鎮守宮由緒)	一般	白山神社境内
A	30	(八幡神社由来)	一般	壁蔵八幡神社境内
A	31	下乗	一般	白山神社境内
A	32	平泉寺白山神社参道	一般	菩提林
A	33	旧参道	一般	菩提林
A	34	牛岩馬岩	一般	菩提林
A	35	光明寺参道	一般	大矢谷
A	36	望郷	一般	平泉寺小学校近く
A	37	常夜燈	一般	白山神社境内
A	38	(芭蕉句碑)	一般	白山神社境内
A	39	(檜鳥会句碑)	一般	観音堂境内
A	40	(素史・浪華句碑)	一般	平泉寺駐車場
A	41	開祖泰澄大師廟	一般	白山神社境内
A	42	(昭和三十四年 白山社式年祭)	一般	白山神社境内
A	43	(平成四年 白山社式年祭)	一般	白山神社境内
A	44	高松宮殿下御手植	一般	白山神社境内
A	45	皇太子殿下御成婚記念	一般	白山神社境内
A	46	元正天皇御齒髮塚	一般	平泉寺共同墓地
A	47	元正天皇御齒髮塔奉修記念碑	一般	平泉寺共同墓地
A	48	元正天皇御齒髮塔	一般	平泉寺共同墓地
A	49	(岩ヶ野神明神社灯籠)	一般	岩ヶ野神明神社境内
A	50	蓮如上人御舊跡	一般	西念寺境内
A	51	蓮如上人御舊跡	一般	平泉寺北谷
A	52	(慈観墓)	一般	赤尾
A	53	(法華塔)	一般	顕海寺境内
A	54	納骨堂（塔）	一般	顕海寺境内
A	55	御経台	一般	平泉寺共同墓地
A	56	(日本廻国供養塔)	一般	白山神社境内
A	57	四国西国秩父坂東其他霊場順拝供養塔	一般	白山神社境内
A	58	四国西国順拝供養塔	一般	まほろば裏
A	59	西国四国順拝記念	一般	顕海寺境内
A	60	西国四国順拝供養塔	一般	顕海寺境内
A	61	西国三十三所観世音（ )	一般	菩提林
A	62	三界萬霊等	一般	顕海寺境内
A	63	南无阿彌陀佛	一般	白山神社境内
A	64	南無阿弥陀佛	一般	平泉寺（六地藏様横）
A	65	南無阿弥陀佛	一般	平泉寺（鬼ヶ市）
A	66	ふりむき地藏	一般	平泉寺
A	67	還暦記念樹	一般	平泉寺

る（表5参照）。別に文化財碑1基があるがこれは町づくりに含めた。数のうえでは勝山町に次いでいる。平泉寺町づくり推進協議会の手になる、地名・旧跡などの説明の碑は今回は掲載を見送らざるを得なかった。

分布状況は当然のことながら平泉寺本区が、なかでも白山神社境内に集中している。泰澄に由来するもの白山神社にかかわるものが多いのは当然として、皇室にかかわるもの回国にかかわるものが多い。全体として宗教に関連する碑が多いのが特徴である。その他、土地改良にともなう記念碑もかなりの数にのぼる。町づくりにかわる碑は56基で、分布状況については『平泉寺史要』を参照していただきたい。

A-1 泰澄墓塔



泰澄墓塔

A-2 (楠木正成墓)



楠木正成墓

寛文八戊申年

二月日

寛文八戊申年…一六六九年。

A-3 江端翁頌徳碑



江端翁頌徳碑

江端栄次郎翁は天資温厚且恭儉宗教心篤く常に當寺維持方法の確立を念願し祠堂金及基本財産田を寄進せられ昭和八年七十三歳を以て住生せらる、や甚之助氏遺志を継承し本堂屋根改造に際し巨額乃寄附を為し堂宇の莊嚴大に整ひたる等功績寔に偉大なり仍て石に刻志以て不朽に傳ふ

昭和十三年九月建之

檀徒中

【解説】

江端栄次郎は慶応三年（一八六七）に平泉寺村に生まれ、西念寺本堂改築に多大な貢献をした人物である。昭和八年（一九三三）没。



富好行其德

柳町如芥君幼名和吉又稱助太郎以天保十三年正月二十日生干越前大野郡平泉寺村君爲人溫厚篤實自奉儉素處事敏活爲衆所推安政五年以藩主命承家文久二年舉爲里正維新以降屢拜戸長明治十一年退隱改今名其年當縣會議員之選君辭之蓋君志專在興產業養民力也十二年虎疫蔓延君勸各戸行清潔法闔村無一人之罹此疫者十三年任山林局監守二十一年任石川縣大林區署巡邏二十三年再幹家事爾後爲農事蠶業製藍牧牛馬等諸委員咸善盡其職二十七八年之役獻金以助軍貲三十一年浮塵子害果穀全國被其災君與石油於邑民以防之收穫倍他鄉大野之爲郡也山嶽四圍九頭龍川中斷其間地味肥沃人情朴魯皆重農業近年政體一變自由民權之說盛行寒村僻邑之民擲耒耜鋤犁而狂奔橫議者比比皆是君深憂之置身於政黨以外主獎勵農桑嘗自巡視各府縣遠涉北海之野以廣其聞見多所釐革又設製藍傳習所養成生徒當築鄉校修道路也君率先捐資且自奮督其工又慨神祠佛宇之荒廢圖其保存前後功績不遑枚舉官賞之農會亦追賞之三十二年七月五日病歿享年五十有八娶廣瀬氏生五男六女長男某承家君歿後鄉民追慕不已相謀建石欲紀其功勞請銘於余嗚呼立於黨派紛爭之間不顧一身之利害盡心干公益者今之世界有幾人如君者可以戒薄夫勵惰夫矣

明治三十四年七月 西肥(贈正四位) 藍田谷口中秋撰

從四位 杉田定一題額

林覺謹書

(裏)

發起人

武内 鉄也
秦 勤有
笠川 継孝
喜多 新助
明石 丸
山内 周昭
比良野 直
近藤 善助
中村民五郎
松村喜兵衛

世話人

【解説】

柳町助太郎(如芥)は天保十三年(一八四二)平泉寺村に生まれた。平泉寺を再興した功績は大きくその他、平泉寺勝山間の道路改修や村の産業の発展にも尽くした。明治三十二年(一八九九)没。碑文は摩耗が激しく『平泉寺史要』に拠るところが大きい。

A15 武内翁功勞碑



武内翁功勞碑

海軍少將從四位勲二等功三級河合退藏閣下題字

武内鐵也翁功勞碑

明治維新ノ際 朝廷令シテ神仏ヲ分離セシメ神社ノ面目大ニ本ニ復スト雖モ北陸多年ノ習俗ハ容易ニ神道ニ歸向セズ昭代ニ遭遇シテ神社却ツテ不振ノ状ヲ呈セリ此時ニ當リ我平泉寺村ニ於テ率先敬神ヲ鼓吹シタル武内鐵也翁ノ如キハ其功勞多トセザルベカラズ翁明治八年ヲ以テ生レ同廿八年弱冠ニシテ神明神社氏子總代トナルヲ頻リニ衆ニ勸メテ神徳ノ發揚ニ努メ遂ニ昭和五年ニ至リ本殿ヲ新築シ境内ヲ擴張セリ同十一年本社ガ村社ニ列シ又神饌幣帛料ヲ供進セラル、ニ至リ四十年前ノ荒廢ト對此シテ今昔ノ感ニ堪ヘザラシムルモノ實ニ翁ノ力ニ歸セザルベカラズ今ヤ氏子相謀リテ之ヲ石ニ刻シ永ク後世ニ傳ヘントス乃テ大要ヲ記シテ其精神ヲ彰スト云フ

昭和十三年九月十日

(裏)

指定村社神明神社

社 掌 平泉 正男

出征不在 河合 退藏

事務代理

氏子總代 林 清太郎

上 興三郎

武内 武

小林朔之助

大林市三郎

大六 義二

松田初三郎

青木 喬

若林四郎松

武内 繼也

松井弥太郎

イロハ順

東京帝国大學教授從五位

文學博士 平泉 澄 撰

福井縣立大野中學校教授囑託

中廣 泰 書

河合退藏：明治十年勝山町に生まれる。海軍少將。島田剛太郎の弟。歸向：心をよせること。鼓吹：鼓吹。意見を盛んに主張して他の共感を得ようとすること。明治八年：一八七五年。頻リニ：しきりに。ひきつづいて。昭和五年：一九三〇年。神饌幣帛：しんせんへいはく。神に供える飲食物。乃テ：かくて。

【解説】

武内鐵也は明治八年平泉寺村に生まれ、若干二〇才にして神明社の氏子惣代となった。以後、本殿の新築や境内の拡張に努めた。同三十四年から四年間村長を勤める一方、女神川から疎水を村内に引き込むことに尽力し、大正年間（一九一二〜二六）に完成を見た。また『平泉寺史要』の編纂主任、『平泉寺文書』の編集委員長も勤めた。

A-6 (頭海墓) 真中

當山再興僧上頭海法印

(裏) 天正十七己丑十二月廿七日

A-7 (専海墓) 右

第二世

大僧都専海法印

(裏) 元和六年庚申三月十三日

A-8 (日海墓) 左

第三世

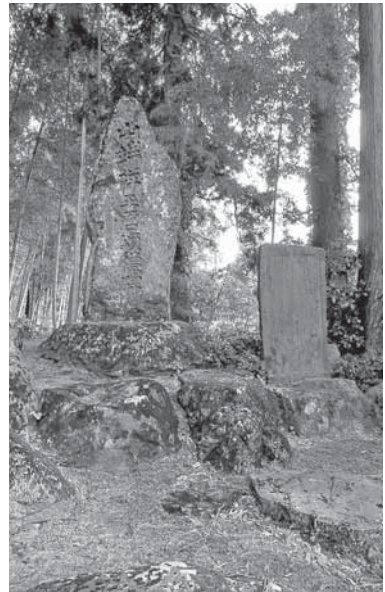
大僧都日海法印

(裏) 寛永十三丙子年六月十四日



天正十七…一五八九年。元和六年…一六二〇年。
寛永十三…一六三六年。

A-9 山端祥玉君頌德碑



【解説】

山端祥玉は明治二十年（一八八七）大渡村に生まれ、日本写真界の權威となった人物である。高速度輪転写真を先駆けて始め、また日本文化を海外に紹介することにも尽力した。村社白山神社の造営や育英事業に巨財を献じた。碑は昭和二十三年（一九四八）大渡区民により建てられた。

山端祥玉君頌德碑

海軍大将岡田啓介書（刻印）

（別碑）

山端祥玉君ハ本名啓之助山端源右衛門君ノ五男ニシテ明治二十年四月四日福井縣大野郡平泉寺村大渡区ニ生レ幼ニシテ俊敏郷閭皆其ノ将来ヲ囑望ス年甫メテ十五大志ヲ抱キテ出郷大阪並ニ東京ニ在リテ艱苦修業スルコト多年更ニ海外飛躍ヲ企テ南方各地ニ奮闘活躍スルコト實二十有八星霜初志漸ク成リテ大正末期帰郷スルヤ東京築地ニ高速度輪轉寫真ノ業ヲ創ム蓋シ本邦斯業ノ嚆矢ニシテ名聲頓ニ揚カル 偶昭和十四及十五ノ兩年官命ヲ帯ヒテ歐米諸邦並ニ南北米大陸ヲ視察シ能ク其ノ使命ヲ果シテ功績極メテ顯著ナリ現ニ「ジーチーサン」「サンニユースフォトス」サン寫真新聞社等各社ノ社長タルノ外スバル興業株式會社副社長トシテ新日本文化ノ興隆ニ寄與スルト共ニ新ニ國際宣傳企業株式會社ヲ創設シ文化日本ヲ世界ニ宣傳紹介シ併セテ國際貿易進展ノ一大活路ヲ開拓セントス 君資性豪快ニシテ然モ誠實温情ニ富ミ能ク後進ヲ指導誘掖ス夙ニ先見ノ明アリ常ニ時運ヲ洞察シ其ノ事ニ當ルヤ熟慮果斷成サ、レハ止マサルノ概アリ真ニ新日本建設途上ノ一偉材ト謂フヘシ 君又一面愛郷ノ念強ク郷土、公共育英事業ニハ恒ニ寄資助成ヲ怠ラス殊ニ村社白山祠ノ造營ニハ巨財ヲ献シテ報恩感謝ノ誠ヲ捧ク郷民齊シク景慕措ク能ハス茲ニ頌德ノ碑ヲ建立シ以テ其德業ヲ不朽ニ傳ヘントス

昭和二十三年八月

A-10 東海和尚



東海和尚

元禄年中

前永平東海大和尚禪師

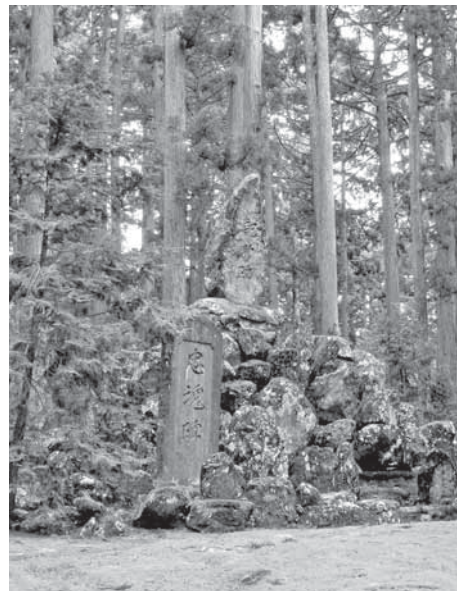
虞峯山圓涌菴

元禄年中…一六八八～一七〇四年。

【解説】

疫病防止のためお経を唱えながら亡くなったとの伝承がある。

A-11 記功碑



記功碑

神尾光臣 書

帝国在郷軍人會

平泉寺村分會

大正四年四月造之

大正四年…一九一五年。



忠魂碑

(裏)

戦死者名列

(二段)	山端 一	田中 賢吉	中村 薫	木船 由松	山田 銀蔵	帰山 紀
大久保福松	南 清	葭田野雪夫	永井 均	木船 義二	山中 與松	中村しづゑ
石黒 松蔵	田名部末吉	福田 進	中村 巖	北山 脇蔵	松田 進	笹本 長雄
福田 藤吉	杼木 勘治	伊藤 滋雄	向嶋 與吉	平岡長太郎	前田伊之助	平林 金盛
山形 弥作	本田 留吉	石黒 高	安田 義雄	山越 惣一	小林 鉄雄	仲村 昌二
山内九平治	加藤 廣吉	原重左衛門	山口 榮治	森永 登	旭 一也	藤沢 貫一
南 七太郎	中道七太郎	長谷川長盛	山端 継孝	池端 正男	竹内 稔	杼木 秀光
永井與太郎	近藤 稔	堂川 智	山中弥雄松	伊藤 行雄	佐々木佐久馬	大六 義夫
福田藤七郎	寺岡 好三	堂川 末吉	山内 一雄	大久保泰作	佐々木末治	
南 七午	織田喜太郎	織田 正行	山本 惣吉	岡田 長二	北坂 直恵	
南 七也	若林 實也	若林 秀雄	松井 正	和田 三穂	森 圭三	
正山 勝也	田中 一信	若林 清	前川 仁志	片岸治太郎	大宮七次郎	
斎藤市太郎	田名部 幸	若林 豊次	福田 藤也	金札 浩	南部 忠信	
坂上 清	江端治左衛門	上山 富夫	福田 弥大	上山 忠一	松田 力	
手塚 鉄也	上山 一次	上山 太	幸河 正	上山 俊夫	(七段)	
山本清五郎	上山 彦二	田村 義治	江端 榮吉	上山 勉	藤沢與三郎	
横山 昇	中村 治光	竹内久右衛門	江端 傳江	(六段)	藤沢 重喜	
竹内 都	山形 清松	田鳥 幸正	手塚 藤次	米田 清一	坂井 馨	
岡田 秀次	山内 義二	塚本 元栄	(五段)	中村 重治	佐藤喜代治	
鳥山 満喜	坂本 啓治	(四段)	手塚 諭	中村 孝榮	藤田 武	
永井 喜七	(三段)	中村 健治	旭 實	中村 義恵	帰山 義平	
(二段)	朝倉 一郎	中村 清	佐々木 早	村上作之助	若林 登	

昭和三十四年七月建之

昭和三十四年：一九五九年。



記念碑

新入村土地改良区

(裏)

当土地改良は新入村地籍を中心とした周辺の十四ヘクタールの面積で構成され 女神川両岸にまたがっている 標高は海拔二百三十六米から二百九十三米に及び 傾斜が強く 農道も極めて不便で大型機械はもちろん小型機械ですら入れない所が多かった 省力農業ができなければ農業経営がなりたたなくなろうとしている昨今 基盤整備を一日でも早く実現しなければ農地を放棄せざるを得ない状態になりつつあった 昭和五十二年新入村地区の田んぼも世間に遅れすぎないよう基盤整備をしようという声が高まった 有志を中心に下準備を行ない 基盤整備を実現する為に組合が結成された 当初は単独の組合として発足し 関係機関と折衝していたところ 市役所の指導により 同時に基盤運動を計画中

の北谷 若猪野新入村の三工区が勝山南部土地改良に統合 合併するよう進められた 約半年に亘って合併の話合がもたれたのち 昭和五十四年 三工区が勝山南部土地改良に合併して発足した 以来三工区の話合い 関係機関の指導援助 並に組合員の絶大な協力を得て 昭和五十六年夏 第一期工事に着工した 五十八年までの三年間でメイン工事を完了し 順次附帯工事を行ない 六二年に確定測量が完了した 基盤整備の話が具体化しはじめてから十年に亘る歳月を要し 工事費約二億二千万円もの巨費を投じて 県営農村基盤総合整備事業(地元負担二十パーセント)が完成した 受益面積十四ヘクタールの圃場整備 農道 用排水の整備と 農地の集団化を目ざした換地を行ない 近代化農業の推進に寄与することができた 農業が不振になってきている現在基盤整備によって省力が計られるようになった事を感謝したい 茲に之を記念し碑を建立して後世に傳んとする

工事施行者 役員

野土建 竹内 孝堂

牧野 稔 大久保久次

山清建設 和田 作栄

山本 信雄 小林 透

久司建設 大林 市衛

久司 利幸 大林 健治

前川組 松井 利栄

前川 輝雄 加藤 和雄

中村 蕃

小林 惣吉

昭和六十三年三月吉日 勝山南部土地改良新入村 工事区

昭和五十二年…一九七七年。

A-14 記念碑



記念碑

(裏)

工事並に設計施行者

今井建設代表者

前川組代表者

砂村土建代表者

株式会社島田組代表取締役

株式会社市岡組取締役社長

岸本組

谷土建

福井コンクリート株式会社資材納入業者

施工者

理事長

乾 與兵衛

福井縣知事

中川平太夫書

副理事長
理事

毛利 素直

小林 清栄

丸山 純孝

坂本 栄

中田 武夫

牧野外喜雄

岸本 豊

鳥山継太郎

上山 弥栄

藤木長兵衛

北坂 政太

田中伊右門

佐藤 茂

田鳥 幸雄

岡田 源松

米沢 和代

長谷川秋男

昭和三十二年七月建之

碑文

当土地改良区は片瀬平泉寺の一部岡横江全部猪野猪野口の一部の五部落の地域を以て構成され東は女神川西と南は勝山新大用水北は大師山法恩寺山麓に至る地区である標高は一四八、一七米から二三七、六米に及び傾斜は東西に二十分の一南北に五十分の一で扇状を呈している土性は九十パーセントが洪積層で土質は埴壤土が多く肥沃である此の地域は古来専業農家として自立して来たが生活様式の著るしい向上による増大した支出を支えるため中堅労働力の殆んど全部が他の高度成長産業其の他に吸収され兼業農家に変貌した

此の極端に低下した農業労働力に見合う農業基盤は余りにも旧態依然として数千枚に及ぶ変形の猫の額の程の小耕地狭い農道混合した用排水路多くの半湿田等機械化による能率向上を阻む条件が重なっていた此の悪条件を克服して近代化農業へ脱皮する為基盤整備を望む声が澎湃として高まるに至った

昭和四十五年以来有志相計り関係当局の指導を得て漸く昭和四十八年七月勝山南部土地改良区の設置を見るに至った爾来組合員の理解ある協力と国県市の絶大なる援助を得て昭和五十一年四月四ヶ年に亘る歳月と約六億円の巨費を投じ受益面積一二〇、五ヘクタールの圃場整備を完成し機械農業に適する耕地の拡大農道の整備用排水路の分離農地の集団化を成し遂げ且農政史上最も困難とされる換地問題を克服して地域農業の近代化に寄與するを得た昭和五十二年三月六日北陸農政局管内最優秀の故を以て唯一の農林大臣賞受賞の栄に浴した

仍って茲に之を記念し碑を建立して後世に傳えんとする 謹書 乾與兵衛

昭和五十二年七月十六日

勝山南部土地改良区

昭和五十二年…一九七七年。澎湃…ほうはい。物事が盛んな勢いで起るさま。

A-15 記念碑



県営農村基盤総合整備事業
記念碑

福井県知事

栗田幸雄書

(裏)

勝山南部土地改良区(北谷工区)

北谷土地改良組合

組合員 三十二名

組合設立 昭和五十五年四月

工事着工 昭和五十八年七月

工事完了 昭和六十二年四月

従前面積 一四二、九一一平方米

整備後面積 一七六、五四〇平方米

整備後水面積 一三〇、五五七平方米

公園 三、二一八平方米

北谷土地改良組合役員

牧下 信芳

A-16 総合整備記念碑

昭和五十五年：一九八〇年。

平成四年八月吉日

林 忠雄
柳内 茂雄
林 健次郎
鈴木 仙蔵
原 藤一郎
松井 誠一
木村 義一
建之



平成三年

総合整備記念碑

勝山市長

今井三右工門書

平成三年：一九九一年。

A-17 記念碑



記念碑

福井県知事中川平太夫書

(裏)

昭和五十年四月着工

共同施行

昭和五十四年三月完成

工事施行者

前川組

代表 前川 静

同 同 福田 政治

同 同 山田 正

同 同 武内三佐男

昭和五十四年七月建之

壁倉土地改良事業

代表者 福田 哲夫

委員 前田仁之充

同 福田平右工門

同 福田 政治

同 山田 正

同 武内三佐男

昭和五十四年七月建之

由来碑

壁倉地区の概況は北に勝山、南に大野が一望できる九頭龍川添いの丘陵扇状傾斜地で典型的な山村僻地である。集落の背後には小高い山を背負い、耕地は集落前方南側に階段状に作られており、この耕地は昔からの田圃で小さくて形状が悪く、農道や用排水の整備もなされておらず、耕地には厳しい労働力が強いられ、永年困難を極め苦しい経営を余儀なくされてきた。

戦後日本経済はめざましい成長を遂げ、あらゆる産業が発展する中で、農業の近代化は年々変貌を極め、大型機械導入による農業経営に大きく変わってきたのである

ここで我々はこの近代化農業へ脱皮するため、これまでの旧態依然とした経営を改め、時代に即応した土地基盤整備を計画いたし、組合員相互が協議の上、関係当局の指導を得て、漸く昭和五十年七月壁倉区に耕地を有する組合員一七名をもつて、壁倉土地改良事業共同施行の設置を見るに至ったのである。

爾来組合員の理解ある協力と、国、県、市の絶大なる援助を得て、昭和五十四年三月まで四年間の歳月と、約八千六百七拾九万円の巨費を投じ、受益面積十三・一ヘクタールの圃場を完成し、機械化農業に適する農地の拡大、大農道の整備、用排水の完備、農地の集団化等あらゆる困難を克服して、地域農業の近代化に寄与することができたのである。

よって茲に之を記念し碑を建立し後世に伝えんとす。

昭和五十四年七月

壁倉土地改良事業共同施行

(裏)

組合員名列

平泉寺町壁倉	中村 淳	平泉寺町壁倉	中村 貢
平泉寺町壁倉	永井 巧	平泉寺町壁倉	福田 政治
平泉寺町壁倉	福田 哲夫	平泉寺町壁倉	福田 英夫
平泉寺町壁倉	福田平右衛門	平泉寺町壁倉	福田 義則

昭和五十年…一九七五年。

A18 竣工記念碑

平泉寺町壁倉	山田仁之充	平泉寺町壁倉	山田 正
平泉寺町壁倉	山田 久	平泉寺町壁倉	山田まつを
平泉寺町壁倉	山田 弘	平泉寺町壁倉	山田 利男
平泉寺町大渡	竹内三佐男	平泉寺町大渡	山内長一郎
勝山市立川町	山田 明		



県営農村基盤総合整備事業
竣工記念碑

福井県知事栗田幸雄書

(裏)

平成六年十月吉日建立

碑文

当地域は勝山市の東南部に位置する中山開地で、点在する農地は主傾斜 $1/14 \sim 1/28$ 小田地である。

地区の北部には女神川又南西部には一級河川九頭龍川が流れている。

地域住民は古来農業に専従し、自立して来たが、数千枚におよぶ変形で狭隘なる田地、不整備で狭小な農道、用排水路の漏水甚だしく水は常に不足がちで、これら悪条件は、到底近代的農業を進めるには程遠い状況にあった。さらに時代の進展はめざましく家畜利用から機械化農業へと移り変わり、一方生活様式の変貌と、基幹農業従事者の減少を来たし必然的に高令化が進んで来た。

この時想いを同じくする平泉寺町南部地区七集落の有志によつて生産性向上の圃場整備、溜池、用排水施設、農道整備、農用地保全等生産基盤の整備、営農飲雑用水施設、集落道、農村公園、多目的共同利用施設等の環境基盤整備を県営事業により施行することを陳情した。

念願かない昭和五十六年採択されて県営農村基盤総合整備事業(平泉寺第二地区)として着了した。

国、県、市、の絶大なる援助、指導により生

産基盤整備六団地七四ha、農道五、九五五m溜池等十二億八千七百万円、環境基盤、営農飲雑用水施設一万四千m利用者一六一件、公園共同利用施設等五件五億七千五百万円総額十八億六千二百万円の巨費と十五年の歳月を経て完成した。

ここに最も困難とされる換地諸問題を克服して、生産基盤、環境基盤事業が完成し農業生産態勢への対応と集落農業推進、地域農業の近代化に寄与することとなった。

組合員一六四名と共に完成を感謝し地域の発展を祈願し、記念碑を建立して後世に伝える。

平成六年十月

勝山東部土地改良区

(裏)

勝山東部土地改良区

役員名列 (五十音順)

理事長	中村 昭二
副理事長	福田 稔
理事	片山 嘉男
同	上山 進
同	上山 信夫
同	上山 登
同	千京 崇雄
同	谷口 正毅
同	辻 昇太郎
同	手塚 正直

事務局長

山端 嘉栄

監事

同	福田 政治
同	山内 嘉夫
同	山口 助栄
同	福田 斎

山本 信雄

山内 重教

福田 勉

中村 甚太郎

永井 六右衛門

朽木 秀治

手塚 幹夫

谷口 藤恵

山口 誠之助

山内 富次

南 文雄

福田 哲夫

手塚 貞臣

狭隘：きようあい。面積が狭いこと。昭和五十六年：一九八一年。

A-19 疎水記念碑



疎水記念碑

正三位勲一等鈴木喜三郎閣下篆額

自村山嶽ヨリ涌出スル河川ヲ村内ニ引水利用
セントスルハ萬人ノ欲スル所ニシテ且當然ナ
リ 古来平泉寺村ニテハ屢女神川ヨリ疎水ヲ
起工セシモ下流三村ノ灌漑ニ支障ノ虞アル故
ヲ以テ毎ニ裁許ニ依リ取毀ヲ命セラレ目的ヲ
達セサリシコト貞享二年以來ノ文獻ニ炳カナ
リ 武内鐵也氏夙ニ此慣例ヲ遺憾トシ之ヲ改
正セント攻究研鑽遂ニ確信ヲ得明治四十五年
區内有志ニ獻策シ村道縦道ヲ字西揚原迄開鑿
シ其側溝ニ依リ疎水ヲ劃シ以テ委員ヲ設ケ徐

テ下流三区ノ諒解ヲ求メシモ議協ハス却テ本
村長ヲ相手取り水利権確認等ノ訴訟ヲ提起サ
レ轉シテ刑事問題ヲモ惹起シ紛争ニ歳ニ及ヒ
シカ漸ク大正三年六月大野郡長五嶋岬氏ノ調
停ニ依リ毎年自九月至翌年四月八箇月間通水
ノ和解成立シ吾區積年ノ願望實現ニ曙光ヲ見
ルニ至レリ 此水利ニ倚リ區内産業衛生火防
等諸般ニ享クル福利洵ニ甚大ナルモノアリ
茲ニ區民相謀リ此碑ヲ建テ以テ武内鐵也氏並
ニ關係諸氏ノ功績ヲ永遠ニ録ス

昭和八年十月

為陸軍特別大演習記念

(裏)

功勞者名列

平泉寺村長

平泉寺區長

同

交渉委員

同

同

同

同

區會議員

同

同

同

同

同

福田 登

中村忠太郎

原藤右衛門

梅田 稔

中村嘉太郎

武内 鉄也

松原甚太郎

岡田長右衛門

乾與 次郎

池端 五市

平林文之助

平林五三郎

田村 新平

中村八之助

同 中村重兵衛

同 柳内 五作

同 牧野 一馬

同 松田初三郎

同 佐々木久四郎

同 田鳥 長松

工事請負人

(ここから2段目)

建設發起者

梅田 稔

原藤右衛門

平林文之助

池端 三男

伊藤治三郎

原 忠

和田由五郎

中村 季二

中村宇太郎

牧下甚之丞

牧野 作馬

松下 由松

青木 喬

旭 定次郎

江端甚之助

平林五左衛門

辻 惣五郎

貞享二年…一六八五年。明治四十五年…一九二二年。大正三年…一九一四年。昭和八年…一九三三年。

A-20 簡易水道記念碑



簡易水道記念碑

昭和三十七年拾月区民八百七拾名要望の

飲料水等の不自由を忍ぶ現状を考へ簡易水道設置を計画
水利権資金等に亘り多大の困難労苦を経遂に霊泉滝王堂
より引水昭和三十九年十二月末日各戸給水を完了せり
飲料用水のみならず衛生防火等福利増進其の恩恵計り知
れないものあり 茲に協力された各氏の名を記し永久に
記念とし 水源地滝王堂神社の永遠の御加護を祈念する

総工費 九百七拾四萬圓

地元負擔 六百拾貳萬圓

導水 一、〇四五米

給水家屋 百七十三戸

配水 五七七二米 消火栓 五一個

(裏)

勝山市長

山内

讓

平泉寺区長 乾 與兵衛

平泉寺住職 萩原 觀俊

市会議員 柳内 茂治

貯水槽敷地無償提供 小林朔之助

青木 尚子 大森 末松 大久保久治

中村六兵衛 若林 孝一 中山又右門

阪本 栄 牧下甚之丞 片岸 治

中村 力太 佐々木章士 牧野登喜雄

春木 喜一 上 一也 中山 盛男

加藤 開藏

昭和四十四年十月建之

平泉寺区総代 松田 忠雄

昭和三十七年…一九六二年。

A-21 県道巡見道改修記念碑



県道 巡見道改修記念碑

福井県知事 小幡治和書

(裏)

巡見道は昭和二十六年十月失業対策事業として着手して全二十九年三月竣工した この事業に関しては福井県知事小幡治和氏を始めとして西村敏男 別田興二郎 吉岡直茂 吉田藤代二 小田素 永田五三雄 上島四郎 山口薫 上田平一の各位の盡力を賜はった 尚戦後の草卒の時代にも拘らず各員の普請の合力によって成功した尊い道である 斯うした敬虔の努力を永遠に記念し且つ感謝の意を永久に銘記する

昭和二十九年三月

平泉寺村長 上山 繁明

草卒…そうそつ。あわただしい。敬虔…けいけん。うやまいつつしむこと。昭和二十九年…一九五四年。

A-22 竣工記念碑



大野勝山広域農道整備事業
竣工記念碑

勝山市長 山岸正裕 書

(裏)

平成二十年十月吉日建立

碑文

この農道は、広域営農団地における高生産性農業の促進と農業環境の改善のため、奥越地域の基幹的農道整備の一環として昭和五十八年度に県営広域営農団地農道整事業備 大野勝山地区として着手した。

当事業は、勝山市北郷町坂東島から荒土町、鹿谷町、遅羽町、猪野瀬地区、平泉寺町、大野市南六六呂師を經由し大野市富嶋に至る約二十八・六kmの道路整備のうち県道などを除く十六・五kmで総事業費七十四億六千余万円の巨費を投じ平成二十年度に竣工した。勝山市区間については、勝山市平泉寺町大矢谷から北郷町坂東島までの約十・九kmで、そのうち荒神石橋、弁慶岩橋、勝山南大橋も当事業で実施した。

今後の地域発展に寄与することを祈念し、ここに碑を建立す。

平成二十年十月吉日

福井県

大野勝山広域農道促進期成同盟会

A-23 荒神石橋



荒神石橋

(絵) 三宝荒神 (三本杉マーク)

◆橋名由来◆

(霊応山平泉寺大縁起)

旧跡越前国大野郡「霊応山平泉寺」は、人王四十四代元正天皇の勅願による泰澄大師開基の霊場也

平泉寺六千坊の一里四方に四社寺あり
艮(北東)峯に虚空蔵・巽(南東)峯には荒神・乾(北西)峯には比島観音・坤(南西)峯には禪師王子・此の四社寺をもつて、平泉寺を安護し賜う平泉寺の四

天王と称され、平泉寺々域とし、四至内(四寺内)と云う。かつて泰澄大師直作の霊像ありと伝えられる

(平泉寺第壹八九字荒神高山)

此の地に存する巨石もご神体としてあがめ此の橋名を「荒神石橋」と名して崇敬し、交通の安全と万民の安寧を祈願することを表します。

平成五年参月吉日

A-24 荒神橋名由来



(絵) 荒神 (三本杉マーク)

荒神橋名由来

(霊応山平泉寺大縁起)

旧跡平泉寺六千坊の一里四方に四社寺あり、艮(北東)峯に虚空蔵・巽(南東)峯には荒神、乾(北西)峯には比島観音・坤(南西)峯には禪師王子・此の四社寺をもつて、平泉寺を守護し賜う平泉寺の四天王と称され、平泉寺々域とし、四至内(四寺内)と云う。かつて、泰澄大師直作の霊像ありと伝えられる。

平泉寺四天王の一荒神は岩をもつて御神体として崇める。

(平泉寺第壹八九字荒神高山)

女神川に架かる此の橋がある土地名は、「荒神野」であり、よつて此の橋名を「荒神橋」と名して崇敬し万民の安寧を祈願する。

平成拾壹年参月吉日

A-25 弁財天大橋名の由来



「弁財天大橋」名の由来

(絵) (三杉マーク)

弁財天 耕蔵(印)

今より約壱千参百年前泰澄大師により開基せられたと謂われる白山平泉寺六千坊の一字で此の川の上流(岩ヶ野区地籍)左岸に弁財天堂がありました

現在はその跡に「弁財天堂趾」と銘記した記念石碑が建立されています

「弁財天」とは人の汚れを払い天災地変の災厄を排除し常に清き水を豊に恵み人に福德財宝を與えられる神として

尊ばれる故に此の川の名を、「弁財天」川と命名したと言われています。

此の度 福井県当局において新設道路を開設されるに当り前述のいわれに基づき旧跡を敬し、利用者の安全と永く清く豊かな神水の恵みをとの願いをこめて新架橋名を「弁財天大橋」と銘名したのであります

平成十四年三月吉日

A-26 (正光山空心房跡の碑)



梵字正光山空心房

傍らに寺名の標石

ここ山寺地籍一帯は正光山普門寺妙覚院の寺域で当空心房は妙覚院内の坊である

A-27 竺峰庵之跡



竺峰庵之跡

(裏)

竺峰庵由緒沿革

本寺院ハ貞享元年竹峰廣嫩大和尚ノ開闢ニシテ多ク尼僧ノ住職地ニシテ寺格ハ平僧地トシ明治二十年勝山町義宣寺住職祖岳全提大和尚ノ出生地ナル因縁ヲ以テ田地山林ヲ寄附シ寺格ヲ昇等シ傳法開山トナリ三百余年ヲ経タリ

竺峰庵歷住諸大和尚品位

常庵開山竹峰廣嫩大和尚

傳法開山祖岳全提大和尚

二世月端達正大和尚

三世德峰全棟大和尚

四世定山活元大和尚

五世隨巖泰順大和尚

六世大安坦元大和尚

七世一翁博元大和尚

八世定山活元大和尚再住

九世一翁博元大和尚再住

平成二年六月吉日建之

岩ヶ野土地改良組合

當庵十世 瑞峰禧元謹書

貞享元年…一六八四年。開闢…かいびやく。開山。
明治二十年…一八八七年。

A-28 岩ヶ野辨財天堂趾



辨財天堂趾

昭和十一年道路改修記念建之

(傍らに祠)



弁財天は人の汚れを払い天災地変の

災厄を排除し常に清き水を豊かに恵み人に福德財宝を与える神として信仰された。その後昭和初期に祠堂も廃堂となり今では、昭和十一年道路改修記念による弁財天堂跡の記念石碑と北岸の巨巖重畳が名残りを偲ばせているのみとなっている、この度岩ヶ野区有志により再興できたのを記念して銘記する。

平成十四年十月吉日建立

建立奉納者

山田 重教	横山 康夫
林 亨	南 英治
片山 嘉男	南 繁太郎
横山 和宏	田名部利雄
横山 淳	松川 豊
田名部重一	横山 稔
林 宗男	松川 政一
辻 昇太郎	南 弘幸
南 文雄	南 大祐
堂前耕太郎	前川さだ子
本田 和雄	前田 一義

昭和十一年…一九三六年。重畳…ちようじよう。
幾重にも重なること。

A-29 (鎮守宮由緒)



由緒

当鎮守宮は明治初年神仏分離の政令
発布までは平泉寺四十八社の一社で字中谷二十二
番地にあった御宮である天正二年四月の一向一揆のため
灰燼に帰したが顕海僧上によって再建された平泉寺再
興開山明治四十年神社統一の際今の地に合併移
轉された御奉神は大地主命と申し土地を支配し給ふ
神様である平泉寺史要並に白山神社の古図其の他
によって明らかである

(裏)

平成拾六年七月吉日建之

氏子

谷川 一男 木船 由則 谷 秀夫
山田 直志 谷 義雄 木船 義一
木船 進

天正二年…一五七四年。灰燼に帰した…かいじ
ん。焼けて原形をとどめないほどになる。明治
四十年…一九〇七年。

A-30 (八幡神社由来)



八幡神社

鎮座地 勝山市平泉寺町壁倉一〇コバエニ

御祭神 天照皇大神 八幡大神

列 祭 八月十六日

旧社格 村社 (明治九年六月)

近くの幕根遺跡から縄文時代の早期
や中期、あるいは平安時代の生活痕跡
が見られることから、壁倉(蔵)の地は

極めて早い時期から開けていたことが
知られるが、神社の創立年代は不詳で
ある。中世においては、室町時代の成
立と見られる丸岡国神社社の「白山曼
荼羅図」に「壁蔵大明神」の存在を伺
うことができることから、白山平泉寺
の境内域のなかに壁倉は存した、江戸
時代中期の正徳二(一七一二)年と明和七
(一七七〇)年の棟札を有し、天保三(一八
三三)年再建、明治二十七(一八九四)年に
本社を改築したが、いま平成九(一九九
七)年十月 改めて社殿を築造し
境内を整備した。

(裏)

八幡神社 造営奉納者名

大坂市	山田 芳夫	大野市	山田 伸一	大野市	中尾 裕子	笹尾	山本 信雄
志田	福田 福男	経塚	馬道 茂	大渡	竹内三佐男	勝山	大北久保建設株式会社
静岡県	福田 義則	愛知県	永井 誠	神奈川県	山田 政春	岩手県	福田 歳弥
下荒井	株式会社鳥山	勝山	川端 治和	松田	須美ツタエ	壁倉	山田 正
勝山	兼六仏壇店	新保	畠山 正	比島	長谷川いとゑ		福田 英夫
福井市	田中 真治	京都市	山本 久雄	竹林	竹内ヨシエ		中村 淳
神野	手塚千代子	大野市	加藤 敏治	奈良県	須見はるゑ		山田 一男
大渡	福田はつ子	彦根市	広瀬美代子	勝山	山田 友美		中村 忠夫
勝山	浅見とみ子	名古屋市	福田 典子	三重県	阪井 和子		永井 巧
大坂市	岡本 正	勝山	南川 民子	松岡町	山田 歳男		福田 哲夫
八尾市	泉野つた子	伊波	廣田みや子	京都府	八木 豊子		福田平右衛門
勝山	森内 定子	勝山	水上きよ子	愛知県	山田 善継		福田 政治
守口市	村田 光子	名古屋市	伊藤 好子	大野市	木下 富夫		山田 弘
愛知県	福田 澄	勝山	河奥たかの	埼玉県	柿沼 幸代		山田 善吉
大野市	長谷川 忍	大野市	中山 泰三	東京都	光沢 澄子		山田 利男
大野市	橋爪 勝治	大坂府	住吉 勝章	長野県	佐藤 勝		山田 久
大野市	梅田 義実	大坂市	桤木 信子	千葉県	山田 勤		
福井市	稲垣 文子	下荒井	島田 一美	東京都	山田 茂		
岩ヶ野	横山 淳	大坂府	泉野 卓爾	下荒井	斎藤 貞男		
勝山	有原多津子	大渡	上山 利幸	大坂府	山田 義春		
勝山	中村 武	福井市	渡辺美華子	大野市	梅田 由美		
大野市	松田 修昌	大野市	川瀬 葉子	戸倉	田中 昭光		
	千恵美	勝山	小寺瓦店	勝山	長岡 幹雄		
大野市	松浦 民	壁倉	福田 光雄	平成九年十月吉日			
名古屋	伊藤 久子		荒井 宣子	記念碑奉納者			
愛知県	福田 昌平	勝山	荒井 幹雄	壁倉			
				山田 正			

A-31 下乗



下乗

A-32 平泉寺白山神社参道



平泉寺白山神社参道
白山神社に通ずる

石畳の参道は、
現在約七百メートル
残っている

中世に僧兵達が
九頭竜川の川原の
石を運んだと伝え
られ、

参道の両側には、
杉・檜・樺・松等の
鬱蒼たる並木が
続いている。

昭和六十一年八月

「日本の道百選」に選ばれた。

(裏)

ライオンズクラブ

国際協会三三四地区五R一Z

ガバナー公式訪問記念

ホスト

勝山ライオンズクラブ

福井ライオンズクラブ

大野ライオンズクラブ

芦原三国ライオンズクラブ

福井吉田ライオンズクラブ

丸岡ライオンズクラブ

春江ライオンズクラブ

昭和六十二年九月十七日

鬱蒼…うつそう。樹木の青々と盛んに繁るさま。
昭和六十一年…一九八六年。

A-33 旧参道



旧参道

六千坊ノ衆徒九頭龍川

ヨリ手送ニテ造リシ石畳

(裏)

昭和七年之建

昭和七年…一九三三年。

A | 34 牛岩馬岩



牛岩馬岩

三刻諸々牛馬ニナリ

通路ヲ妨タケタリト謂

(裏)

昭和七年之建

A | 35 光明寺参道



光明寺参道

(側面)

昭和五十五年七月

施行主

光井憲昭

(裏)

施工者 勝山市

さく井

和田

栄

〃 左官

堀

喜六

〃 金物屋

高田屋村島平三郎

〃 石工

長谷川秋男

大野市

山二工業

山田 二郎

〃 大野開発

斉藤善次郎

〃 電機工事

常脇

功

昭和五十五年…一九八〇年。

A | 36 望郷



望郷

ふるさとの山に向いて

言う事なし

ふるさとはなつかしく

平泉寺は恋しかり

想い出の川想い出の人

なつかしき想い出は

果しなく郷愁をさそう

風雪に耐え村を守る

人の倅せを祈り

恵まれた生涯が嬉しく

ふるさとに感謝す

有難きふるさと

素晴らしいふるさと

昭和五十五年十月

加藤治三雄建之

昭和五十二年…一九七八年。

A-37 常夜灯



奉納
常夜灯
(裏)

嘉永四辛亥年九月

梅田治右工門
柳町助右衛門
原 藤 蔵
作人 大 野
石屋久右工門

嘉永四辛亥年…一八五一年。

A-38 (芭蕉句碑)



うらやまし浮世の北の山桜 芭蕉翁
発主 旭窓樓白道 百花園中 建部竹窓書
(文政四年)

文政四年…一八二一年。

A-39 (樗鳥句会碑)



九頭龍の荒瀬むかしに冬近き
白山の雪を思うて川瀬きく
杓底残水たちまち涼し永平寺
白山は雪のおくなり初茜
天嶺を仰ぐ初日に霞ひく
元朝の深雪ひとしお平泉寺
雪解のあした土みる農夫みる
白山のやしろ句額に霞御
新しき神の鈴音春やしろ
囀る春か来ていし平泉寺
意気見せて桜に張りし絵馬の綱
ふる里の思いほのかに桐の花
牡丹咲く水田の里や平泉寺
沙羅の花ちりて侘しき石たたみ

浪 華 塚
穆 村
青 二 郎
咲 子
は な 恵
絹 代
豊 月
ま つ 恵
環 子
雪 子
忠 子
明 園
き み 子
君 子

新涼若水ほとばしる羅漢道
 新緑の山添いすがし句碑のみち
 千古より自然の報土苔の華
 九頭竜秋名の石に見る水の形
 興亡を偲ぶ礎石にこけの花
 鶉なくや聖かよいし石畳
 小春日の木立に映ゆる苔の彩
 菩提樹の奥に古読や紅葉して
 跡しのぶ女神川を宮紅葉
 六千坊偲ぶ栄枯や秋時雨
 たわたわと黍美の里たり平泉寺
 興亡の名残り落葉の石たたみ
 平泉寺苔にも深き霜ばしら
 白山の雪きて里の冬したく
 白山の入日黄金やさとは雪
 北国に住ミし定め雪囲い
 冬草の蔦ほろほろと秣ばら
 久々の景色北窓開きけり
 そのむかし六千坊の冬こもり
 (裏)

揮毫者
 敷地提供者
 賛助委員

昭和五十二年 吉日

勝山榎鳥句会

昭和五十二年…一九七七年。

あさを 実枝子
 きよ女 美春
 ふじの 利光
 秋尾 勝昭
 澄子 長峰
 まさえ 繁康
 すみ子 千代子
 治代 千代子
 みより 千代子
 まちな 千代子
 浜子 千代子
 雪峯 千代子

A-40 (素史・浪華句碑)



箒はなして
 一則きくや
 松の花
 素史

西芳寺と
 いずれ讃えん
 苔の秋
 浪華

(裏)

青門六百号を記念し

之を建つ

平成十二年十二月吉日

青門一同

A-41 開祖泰澄大師廟



開祖泰澄大師廟

(裏)

大正十四年四月修補 芳名者

世話人

池端 五市
 岡田 松蔵
 柳内 五作
 牧野 一馬
 梅田 稔
 竹内 ■ ■
 平林文之助

氏名は2段以下、判読できず。
 大正十四年…一九二五年。



昭和三十四年…一九五九年。

昭和三十四年 白山神社式年大祭

氏子中寄附者列名

(二段)

一金壹拾萬円宛

平泉 洸

中村 季二

一金七萬円

平林 茂

一金五萬円宛

原藤右衛門

乾 與兵衛

江端甚之助

大六 義二

一金四萬円宛

辻 惣一

池端 三男

佐々木 彰

一金參萬參千円

大林市三郎

一金參萬円宛

牧下甚之丞

田中運太郎

柳内 茂治

辻野長次郎

(二段)

一金參萬円宛

和田五三男

武内 定心

松田 政治

小林朔之助

柳町 忍

一金貳萬五千円宛

杉山 一榮

田鳥 幸吉

柳町作右衛門

春木 喜一

原 藤一郎

一金貳萬円宛

中村亀次郎

青木 尚子

坂本 榮

松田 忠雄

加藤 開藏

田村 一治

梅田治右衛門

牧野外喜雄

(三段)

一金壹萬五千円宛

平林五左衛門

若林善次郎

青木 春雄

中村六兵衛

川 勝治

中村 重雄

平林 竜雄

伊藤 勇

一金壹萬円

松田 教心

林 清太郎

石黒 憲次

中村 盛男

中村 力太

中山又右衛門

田鳥 良雄

平瀬 清市

谷川 政治

松井松太郎

若林十四冬

(四段)

一金壹萬円宛

木村 芳三

笹木源四郎

松井 松榮

旭 定次郎

江端榮太郎

中田 榮

武内 外吉

中田 武夫

織田亀之助

石坂 弘

別段 震大

佐藤 才太

坂 等

大林 末松

田鳥 幸雄

中村 敬

大久保久次

石黒 石榮

一金八千円宛

岡田 源松

(五段)

一金八千円宛

鈴木仁喜藏

亘 武夫

一金七千円宛

田鳥 五作

鈴木與三松

乾 静

岡田 フエ

佐藤々太郎

一金六千五百円

片岸 治

一金六千円

加藤富右衛門

一金五千円宛

林 與作

小林 惣吉

中村 哲郎

小林 秀治

乾 藤一郎

佐々木佐一郎

梅田 茂

(六段)

一金四千円宛

谷 末松

辻本 政好

一金參千円宛

佐々木新作

上 一也

谷 善夫

杉山 乙松

柳町 ひさ

平岡 万藏

平山 豊

小林有右衛門

大久 保清

青木 淳

中村宇太郎

武内 力

村上作太郎

以下略之



平成四年 白山神社式年大祭

氏子中寄附者列名

(二段)		江端栄太郎	小林 秀治	木船 敏男	谷 義雄
一金壹百万円也	大林 市衛	一金五万円	石坂 弘	木船 由則	中田 栄
平泉 洗	岡田 昭郎	伊藤 正一	乾 藤一郎	坂本 義一	中村 重昭
中村長兵衛	岡田 源松	梅田 時彦	大久保久治	佐々木佐吉	中山又右門
一金五拾万円也	川 勝治	大林 健治	萩原観順	佐藤 肇	平岡 哲雄
原 耕一	竹内 孝堂	坂本 明	坂本 敏和	鈴木 重藤	松井 一夫
平泉 法祥	田鳥 忠正	武内 満	大六 輝男	鈴木 仙蔵	松下 善導
一金参拾五万円也	中村 敬	武内 喜雄	中村 森治	谷川 一男	村上 三作
竹内 盛直	中田 武治	中村 隆夫	平林 秀治	田鳥 篤盛	山口 豊
一金参拾万円也	中村 光男	中村 誠一	松井 誠一	谷川 一男	村上 三作
乾 与兵衛	林 健次郎	松田 忠雄	松田 忠雄	田鳥 篤盛	山口 豊
梅田治右衛門	林 忠雄	武内 満	松田 忠雄	谷川 一男	村上 三作
江端 謙一	原 藤一郎	大六 輝男	松田 忠雄	田鳥 篤盛	山口 豊
佐々木孝章	春木 伸一	武内 満	松田 忠雄	谷川 一男	村上 三作
大六 繁二	平林 弘	中村 森治	松田 忠雄	田鳥 篤盛	山口 豊
平林 茂一	松田 稔	中村 隆夫	松田 忠雄	谷川 一男	村上 三作
牧下 信芳	柳内 敏夫	中村 隆夫	松田 忠雄	田鳥 篤盛	山口 豊
松田 正道	柳町 光裕	中村 隆夫	松田 忠雄	谷川 一男	村上 三作
柳内 茂雄	若林 孝一	中村 隆夫	松田 忠雄	田鳥 篤盛	山口 豊
一金貳拾万円也	和田 栄一	中村 隆夫	松田 忠雄	谷川 一男	村上 三作
小林 透	(三段)	中村 隆夫	松田 忠雄	谷川 一男	村上 三作
杉山 一栄	一金八万円也	中村 隆夫	松田 忠雄	谷川 一男	村上 三作
谷 秀夫	加藤 和雄	中村 隆夫	松田 忠雄	谷川 一男	村上 三作
一金壹拾五万円也	中村 蕃	中村 隆夫	松田 忠雄	谷川 一男	村上 三作
田村 新治	一金七万円也	中村 隆夫	松田 忠雄	谷川 一男	村上 三作
(二段)	片岸 敬治	中村 隆夫	松田 忠雄	谷川 一男	村上 三作
一金壹拾参万円也	牧野外喜雄	中村 隆夫	松田 忠雄	谷川 一男	村上 三作
旭 登	一金六万円也	中村 隆夫	松田 忠雄	谷川 一男	村上 三作
一金壹拾万円也	加藤富石工門	中村 隆夫	松田 忠雄	谷川 一男	村上 三作
青木 淳	小林 惣吉	中村 隆夫	松田 忠雄	谷川 一男	村上 三作

A-44 高松宮殿下御手植



高松宮殿下御手植

(裏)

昭和三十二年十一月十二日

他に

昭和四十八年五月十日と昭和五十年五月二十二日の二基あり。

昭和三十二年…一九五七年。

A-45 皇太子殿下御成婚記念



皇太子殿下御成婚記念

昭和三十四年四月

A-46 元正天皇御齒髮塚



元正天皇御齒髮塚

(裏)

昭和五十八年十月吉日

平泉寺区

昭和五十八年…一九八三年。